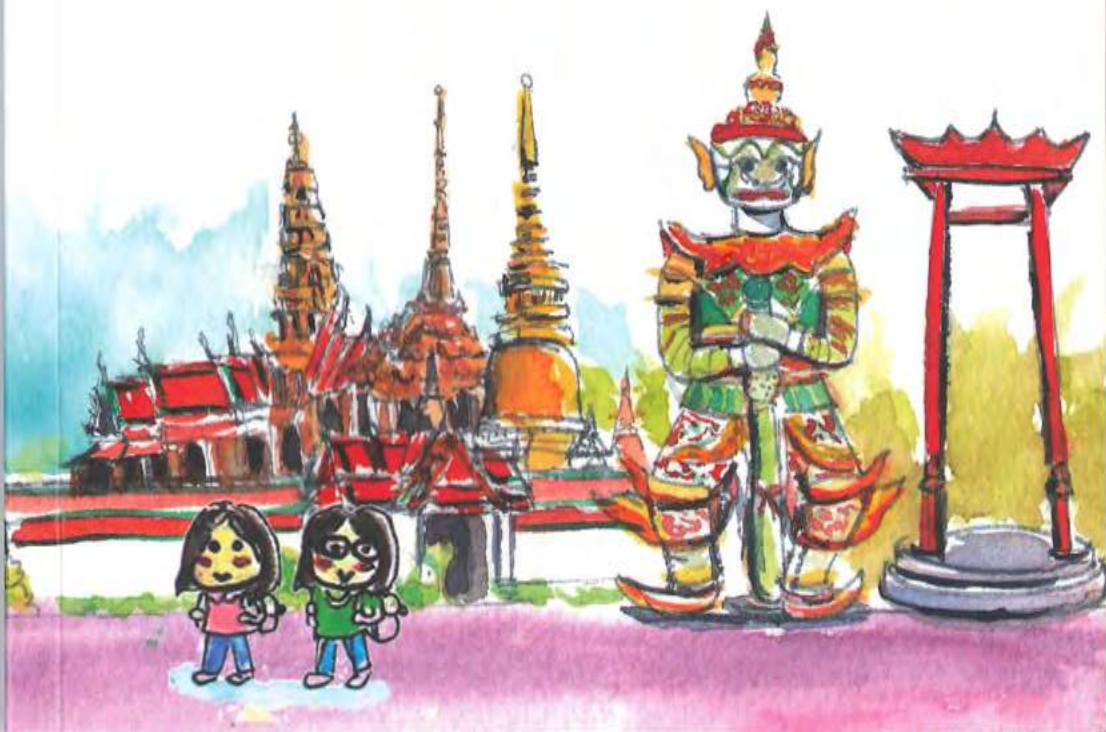


Walking Bangkok

バンコク15の今昔
お散歩ルートマップ





バンコク15の今昔お散歩ルートマップ

- | | |
|--|----|
| 1. ヤワラート地区 | 3 |
| 2. ナンルン・クローンパドゥン地区 | 11 |
| 3. トンブリー地区 タイ仏教寺院、キリスト教会、モスク、
中国廟~クローンサーン | 17 |
| 4. バンランプー、ワンナー、ターティアン | 23 |
| 5. 大ブランコ、ディンソー通り、チャオポースア廟
ラッタナコーシン島の中心部 | 29 |
| 6. サムセーン~テーウェート | 35 |
| 7. バーンラック~シーロム | 41 |
| 8. ボーベ市場~ラチャプラソン交差点 | 47 |
| 9. バンラムプーの寺町巡り | 53 |
| 10. バンコク旧市街の城壁周辺を巡る | 59 |
| 11. ワンラン地区を散策 | 65 |
| 12. ヤワラートでアートの街を攻略 | 71 |
| 13. クローンサーン、ターディンデーン地区を歩く | 77 |
| 14. バーンモー、サムペン かつての流行発信地を歩く | 83 |
| 15. タラートブルー~ジョームトーン | 89 |

Walking Bangkok




ウォンワン・ヤイ

ペッチャカセムロード

15

グラスロード

チャルンクルン通り

14



1



バムナムアン通り

10



クリンカセム通り

2



6



ラーチャウィティー通り

13



12

ラマ4世通り

シーロム通り

7

スラウォン通り

バヤータイ通り

ラマ4世通り

8



ペッチャプリ通り

ラーチャアブラーロット通り

ラーチャデーウィー通り

シーアユタヤ通り

13

ラマ5世通り

9

ラマ8世通り

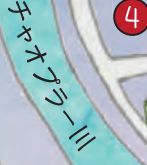


ソムデット・アラビンクラオ通り

11



ワンラン通り



4

チャオアラウ川

3

アルニアマリン通り



13



5



9

マハーチャイ通り

10

ラーチャダムヌン・ノーク通り

6

サムセーン通り

ラマ4世通り

ラチャダムリ通り

ラマ4世通り

11

13

13

13

写真を撮ろう!



- ワット・トライミット博物館
- ヤワラート金博物館(陳焯剛金行)
- ワット・マンコーンカマラワート [レンヌイイ(龍蓮寺)]
- ワット・バンベンチーンプロット [ヨンホックイイ(永福寺)]
- ワット・カンマートゥヤーラーム
- レンプアイア廟(龍尾古廟)

Walking Bangkok



#walkingbangkok
#walkingbkk

ヤワラート地区



おすすめルート

- ワット・トライミット博物館
2分 (140m)
- 中華門(フミボン国王
ご生誕72年祝賀!)
- 3分 (270m)
- コーヒーとトーストの
「イヤッセー(益生老店)」
- 8分 (160m)
- ヤワラート金博物館
(陳焯剛金行)
- 2分 (160m)
- 海南チキンライスの
「タイヘン(泰興)」
- 1分 (22m)
- ワット・バンベンチーン
プロット(永福寺)
- 2分 (150m)
- ワット・カンマートゥヤーラーム
- 3分 (250m)
- ワット・マンコーン
カマラワート(龍蓮寺)
- 3分 (200m)
- レンプアイア廟(龍尾古廟)
- 9分 (750m)
- ディアンファー 財団病院
(泰京天華慈善醫院)の観音堂

何を食べてよう?



- コーヒーとトーストの「イヤッセー(益生老店)」
- 海南チキンライスの「タイヘン(泰興)」
- シンガポール風ロッチョン(米粉のデザート)

このルートは美味しいものがいっぱい!

BANGKOK
2017
THAILAND
2560

* ヤワラート地区

バンコクの
チャイナタウン散策

01

ワット・トライミット博物館 (ヤワラート歴史博物館)

この博物館では、主に中国南部から海を渡ってタイに移住してきた華人たちが、バンコクの現ラタナコーシン王朝の成立とともに居住区を形成してきた歴史を紹介しています。赤や金色の漢字看板が目立つバンコクのチャイナタウンは、現在でもバンコクで最も活気のあるエリアの一つで、多くの人が買い物や食事を楽しみにやって来ます。この博物館のあるワット・トライミットは黄金仏寺院としても知られています。黄金仏は、高さ約3.9メートル、重さ5.5トンで、首からは99.9%の純金、首から下の部分は金40%で製造されています。

金が用いられた仏像としては世界最大のものでギネスブックにも登録されています。仏像はスコータイ時代に作られた大変古いものと推測されていますが、1953年に廃寺となっていたワット・プラヤークライに安置していたものを移動する際に漆喰が剥がれ落ち、中に黄金の仏像が隠れていたことが分かりました。

02

中華門(プミポン国王ご生誕72年祝賀門)

チャルクロン通り、ヤワラート通り、タイ中友好通りの交わるロータリーに位置しています。かつては噴水広場でしたが、1999年12月5日、プミポン(ラマ9世)前国王のご生誕72年を祝賀してチャイナタウンの入り口にふさわしい中華風の門が建てられました。設計は中国の技師によるもので、建設に際しタイに定住し王室を敬愛する中華系タイ人たちによって多くの寄付が集められました。門にはプミポン国王の次女シリントーン王女ご本人による書で「圣寿无疆(聖寿無疆)=陛下にご長寿あれ」と中国語で書かれたものが掲げられています。



03

コーヒーとトーストの 老舗「イヤッセー (益生老店)」

ヤワラート地区で80年以上の歴史を持つ老舗。多くの年配のお客さんがくつろぐ社交場のようなカフェです。さらに暗い色の丈夫そうな木のテーブルと椅子がレトロ感を漂わせ、今日のバンコクで他ではなかなか味わえない雰囲気です。

創業以来のスローガンは「毎日、挽きたて入れたてのコーヒーを！」。5:00~20:00毎日営業です。



04 ヤワラート金博物館(陳 剛金行)

博物館のある建物はラム6世の頃にオランダ人建築家によって建てられた7階建ての洋館で、インテリアと家具は中国風となっています。博物館は6階にあります。それほど大きな部屋ではありませんが、昔の金型や天秤、純金を抽出するための溶液の入れ物、溶解炉など、金の精製や商取引に用いられた実に多様な道具類が所狭しと展示されており、見ごたえがあります。9:30~16:00無料で公開されていますが、特に団体でお越しの場合などは事前にご連絡することをお勧めします。



05

海南風チキンライス (カオマンガイ)と昔ながらのタイスキの 「タイヘン(泰興)」

「タイヘン(泰興)」は、1920年にヤワラート通りに創業した老舗です。中国海南島のレシピの子キンライス(カオマンガイ)や炭火の鍋を使ったタイスキを出すお店としては草分け的存在です。特に下味を付けた肉と野菜をよく混ぜオリジナルのたれに付けていただくタイスキは、今日でもバンコクの食通たちをもうならせる名店として人気です。



ワット・バンペンチーンプロット 「ヨンホックイー(永福寺)」

06

「ヨンホックイー(永福寺)」の前身となる宗教施設は、バンコク、ラッタナコーシン王朝初期に華人たちによって建立されたと考えられます。その後1887年に改修され現在の名称になりました。タイ語の「ワット・バンペンチーンプロット」は時のラマ5世によって授けられた名称です。木造の中国式建築の本堂はわずか幅7.8m、奥行き10.2mと、バンコク市内でも最も小さな寺院と言えますが、中には貴重な仏像がたくさん安置されており、大乘仏教の中国僧も常駐しています。



07

ワット・カンマートゥヤーラーム

この寺院はラマ4世の時代(日本は江戸末期頃)に、クリーブ・サーカラワーシー夫人によって花畑だった土地に建立されました。その後、その息子にあたるブラダルンラクサー(カン・サーカラワーシー)氏はラマ5世にお仕えしました。寺院が完成すると、王より「ワット・カンマートゥヤーラーム(カン氏の母上が創建者の寺院)」と名付けられました。寺院インドの聖地サールナートのダメーク仏塔を模したスリランカ式の仏塔が立ち、本堂内はブッダの生涯を表す壁画が描かれています。

08

ワット・マンコーンカマラワート 「レンヌイー(龍蓮寺)」

建設に8年を要し、1871年に開かれたタイ国の中国系仏教寺院で、寺院の名称はラマ5世によって付けられました。中国南部潮州の様式で主に木と煉瓦を用いて建てられており、境内に入ると左右に2体ずつ中国風に武装した姿の四天王像が置かれています。



中へ進むと前面に四天王を祀る堂、中央に本堂、奥には神廟があります。本堂には釈迦如来像、阿弥陀如来像、そして薬師如来像が、その他に神廟には58の神様が祀られています。

06:00~18:00毎日参拝する事ができます。

09



レンブアイア廟(龍尾古廟)

潮州系華人によってアユタヤ朝の中期に建てられた古い廟とされています。潮州の様式で柱は中央がやや太くなっており、長い龍が巻き付いています。廟内の装飾は大変希少価値の高い古いもので、その中には明時代の鐘などもあります。また、香

炉はラマ5世から下賜されたものです。特に旅行や住居関連の願い事にご利益があると言われ、今日でも多くの参拝者で賑わっています。

10

ティアンファー財団病院 (泰京天華慈善醫院)の観音堂

泰京天華慈善醫院はタイ国初の華人系財団として1902年に創立しました。当初は中国各地から移住してきた華人のための治療場として中医(漢方)と西医(西洋医学)の部門がありました。また病院の敷地内には観音菩薩を祀る廟があり、多くの人々が病気や怪我の完治と健康を祈願しにやって来ます。

観音菩薩像は香木を彫ったもので唐時代の様式ですが、おそらく800~900年ほど前の宋の時代に彫られたものだろうと推測されています。1958年に中国から運ばれここに安置されました。



Street Food & Yaowarat

9

10



1. クイツィアオ(米麺)の
プラーチャウォン2491
2. ジェーゾーン・カタローン
3. タオトゥン(豆湯・中華風デザート)の
ジェーワー
4. ミーワーン・ジェームアイ
5. クイチャップ(ベトナム風太麺)の
ウアン・ポーチャナー
6. クイツィアオ・クアガイ(鶏肉麺)の
カタートンルアン
7. カレーのナイヨーン
8. 中華料理の和成豊(ファセンホン)
9. 香港ヌードル
10. パミー・チャップカン
11. ジェックブイ音楽食堂
12. 家鴨米麺のナイイマオ
13. お粥の3/1
14. パーチン・ホイクレーン(貝料理)
15. スイートタイム
16. クイチャップ(ベトナム風太麺)の
ナイイェック
17. フカヒシのチア
18. ヤワラートの美味しいパン屋さん
19. 豚血スープ煮込み料理のウアン
20. T&Kシーフード
21. 腸粉のポーチャイ
22. 牡蠣オムレツのテキサス
23. 豚足のティーサーム
24. 金のひょうたん(ハーブのジュース)
25. ロートチョン(シンガポール風スイーツ)
26. 魚肉団子のナイイメン
27. アイスクリームのアーイー
28. コーヒーの益生老店(イヤッセー)
29. ワゴン車タイ風すき焼きのマーノップ
30. チャーシューご飯のシーモラコット
31. サテ(豚串焼き)のチョーンキー
32. アイスクリーム・スクープ

Walking
Bangkok



おすすめルート

- ドゥシット宮殿前広場 (ラマ5世大王騎馬像)
2分 (190m)
- パルサカワン宮殿
1分 (95m)
- 警察博物館
6分 (500m)
- ワット・ベンチャマホピット (大理石寺院)
12分 (950m)
- ナンルン100年市場
1分 (50m)
- アバカラキヤットウォン 親王記念廟
2分 (120m)
- チャルムタニー木造映画館
3分 (230m)
- ワット・ストーンタマターン
4分 (300m)
- ナンルン・アート
2分 (190m)
- ナンルン・ダンス・ハウス
1分 (50m)
- ノラーシン・ハウス



- 写真を撮ろう!**
- ドゥシット宮殿前広場(ラマ5世大王騎馬像)
 - パルサカワン宮殿
 - 警察博物館
 - ワット・ベンチャマホピット(大理石寺院)
 - ナンルン100年市場
 - チャルムタニー木造映画館
 - ワット・ストーンタマターン
 - ナンルン・アート(芸術の家)
 - ナンルン・ダンス・ハウス
 - ノラーシン・ハウス

ナンルン・クローンパドゥン 地区

何を食べよう?



- アヒル煮込みの「ソー・ルンロード」
- ナンルンの牛煮込み
- ワンタン麺の「ルンルアン・バミー」
- タイ菓子「ナンター」
- グリルドチキンの「リキット・ガイヤーン」

Walking Bangkok

#walkingbangkok
#walkingbkk

AnnLinkSketchBooks

การท่องเที่ยวแห่งประเทศไทย สำนักงานกรุงเทพฯ TAT BANGKOK

* クローンパドウン・ ナンルン地区

クローンパドウン地区の歴史散歩



01

ドゥシット宮殿前広場

ドゥシット宮殿地区のアナンタサマーコム宮殿とアンボン公園の前にある広場でラマ5世の時代に作られました。この広場の中央には王の騎馬像があることから「ラマ5世騎馬像広場」とも呼ばれています。この像は王が1907年に二回目欧州歴訪の際にパリで目にしたフランスのルイ14世の銅像をモデルに、ご在位40周年を記念して作られたもので、落成式にはラマ5世自らが出席なさっています。王は今日でもタイ国民から敬愛され、この騎馬像にも多くの人が訪れています。



02

パルサカワン宮殿

ラマ5世騎馬像広場に面したピサヌローク通りとラチャダムヌン・ノーク通りの角にある宮殿です。ラマ5世の時代にチャクラボン・プーフナート親王の住居として与えた宮殿です。建物は、イタリア風バロック様式で、クリーム色に塗られ、美しく装飾されています。3階建ての宮殿の1階は応接室や休憩室、2階は王子夫妻の居住スペースや浴室、書斎など、そして最上階は寝室となっています。宮殿内にはもう一つの建物があります。こちらは黄色く塗られ、赤い屋根の洋館で、小さな庭園と木々に囲まれ涼し気な雰囲気です。



03

警察博物館(パルサカワン宮殿)

パルサカワン宮殿内にはチトラダー宮と警察博物館の二つの美しい洋館があります。警察博物館は国務省によって開設されたもので、タイの警察の歴史について各時代のピストルや制服をはじめ、希少価値の高い古い時代の写真や歴史上の重大事件に関する各種証拠品などが保存され、その一部が観光客にも公開されています。警察博物館は展示物はもちろん、美しい建築そのものも大変見ごたえがあります。10:00~16:00 月火休館。





ワット・ベンチャマ ボピット(大理石寺院)

04

第一級王室寺院で、バンコクで最も美しいタイ寺院建築の一つです。創建についての詳細は未だに分かっていませんが、古い資料にはワット・レーム、もしくはワット・サイトーンなどの名で記録されています。時代が下り、ラマ5世の時代に現在のワット・ベンチャマボピットという名称が下賜されました。これを文字通り訳すならば「5人の王が共に改修をした寺」という意味です。

建材にはイタリアはカラーラ産の大理石が使われ、屋根は鮮やかなオレンジ色の瓦、そして窓には仏教寺院には珍しくステンドグラスがあしらわれています。西洋の影響を積極的に取り入れ近代化を進めていた当時のタイを代表する建築としても代表的なものです。

ナンルン100年市場

05

タイ国で最初の陸上の市場とも言われる歴史のある市場です。ナコンサワン通りにあり、かつては木造の建物で多くの商店がひしめき合うような市場でした。その後改修され、お惣菜やお菓子などバンコク都民の誰もが認める名店が集まる市場として今日でも大変な賑わいを見せます。特に、タピオカの豚肉団子(サークー・サイムー)のメーサウン、アヒル煮込み料理(ベット



・パロー)のソー・ルンロート、たご焼きならぬ貝焼き(ホイ・クロック)のスカンヤー、その他、発酵魚肉のソーセージ(サイクロック・ブラーネーム)やワンタン麺が大変有名です。美味しいもの目当てでしたら、10:00から遅くとも13:30頃までに訪れるのが良いでしょう。午後遅くなるとすぐに売り切れてしまい、店じまいが始まるほどの人気ぶりです。一方で、夜のみ営業するお店もあり、夜食スポットとして訪れるのも楽しいでしょう。

06

アパカラキヤットウォン親王記念廟

アパカラキヤットウォン親王はラマ5世の第28番目の王子として生まれ、一般に「サデット・ティア」と親しみを込めて呼ばれています。精悍なお顔立ちのこの親王はイギリス留学から帰国後、タイ海軍の近代化に貢献、チョンブリ県サッタヒップの海軍基地を創設しました。さらに、特にハーブを用いた医療を研究し、あらゆる階層の人々の治癒に携わったことで今日でも国民から広く敬愛されています。また、ムエタイにも長け、多くの優れたムエタイ選手の育成にも尽力しました。宮殿がナンルン100年市場の近くにあったことから、市場の中央に親王を偲ぶ廟が建てられています。今でも大変多くの人が参拝しており、

特に親王の誕生日である毎年12月19日には演劇などが奉納されます。



07

チャルムタニー木造映画館

「ナンルン映画館」とも呼ばれかつて多くの市民に親しまれていた映画館です。タイの映画館史上初期に建てられたもので、木造吹き抜け2階建て、観客席は木造の長いすが並ぶスタイルでした。ラマ7世の時代に王室系の企業に買収され、「サーラー・チャルムタニー」と名づけられました。しかし、1990年代後半の不景気の中、タイの映画界もその影響を受け映画館としての役割を終えてしまいます。現在でも建物は残っていますが、倉庫として利用され、かつての映画館としての華やかさをわずかに残すばかりです。



ワット・スントーンタマ ターン(ワット・ケー・ナンルン)

この寺院は日本の江戸時代後期、ラマ3世の時代に創建されました。この時代の宮廷の高官がバンコク郊外の運河を船で移動中、水面に不自然な渦巻きを見つけました。そこで水中の様子を探ってみたところ、仏像の一部が見つかりました。不思議なことにこの仏像は水に濡れていなかったということで、この高官はこれを自宅に持ち帰り、丁寧に供養しました。噂を聞きつけた人々はこの仏像を一目見ようと集まったと言われています。後にこの高官は自宅のあった場所を寺院として寄進しました。これがこのお寺の始まりです。寺院の通称「ワット・ケー」とは、

この周辺にかつて住み着いたタイ南部の人たちの方言から付いたものです。また、1970年、映画の撮影中にヘリコプター事故で亡くなった当時の人気俳優ミット・チャイバンチャーの遺体が服喪期間の100日間このお寺に安置されていたことがあり、何万人ものファンたちが参拝したと言われています。俳優人生で300もの映画で主演を演じた彼の葬儀は国葬となり、庶民の葬儀としてはタイ史上最大のものでした。

09

ナンルン・アート

ナコンサワン通り、ナンルン市場の向かい側にある古い写真館です。初代店主は中国から移住してきた華人で、タイで初めて高品質の肖像写真のペンダントを製造販売したお店としても知られています。これは当時一世を風靡し、「ナンルン・アート」の名は全国に知られるようになりました。現在の店主もまた、この精巧な製造法の伝統を大切に守っており、ワークショップなども開催しています。また、店内にはノスタルジックな雰囲気が今も残されており、訪れる人々を楽しませてくれます。

10

ナンルン・ダンス・ハウス

木造2階建てで、かつての若い男女が社交場としてここでダンスの練習を楽しんだと言われていました。今日、建物は老朽化し、当時のように若者たちがダンスに夢中になる事はありませんでした。しかし、当時の雰囲気を残しつつ資料館として修復され、地域の歴史を次世代に伝えるとともに、社交ダンスの教室なども開かれています。



11

ノラーシン・ハウス

ラマ6世の時代にノラーシン舞踊団によってワット・スントーンタマターンにほど近いランルアン通りに建てられました。この舞踊団は伝統仮面舞踏劇コーンの他様々なスタイルの伝統歌劇を得意としており、この近くには今でもタイの伝統舞踊に携わる家族が集落をなしています。また、この界隈にはタイの伝統舞踊で用いられる繊細な衣装や装飾品を作る職人も暮らしており、タイの伝統芸能の世界では伝説的なコミュニティとなっています。その中心にあるノラーシン・ハウスでは、今日でもタイの伝統芸能の歴史を人々に伝える役割を果たしています。





写真を撮ろう!

- ワット・アルン(暁の寺)
- バーンルアン・モスク
- ワット・カンナヤラナミット
- キアン・アン・ケーン(建安宮)
- サンタクルーズ教会
- ワット・プラユラウォンサーワート
- クーワティン・イスラム・モスク
- シーナカリン王太后記念公園
- ワット・アノン
- ワット・ピチャイヤート



#walkingbangkok
#walkingbkk

おすすめルート

- 1 「ルン(おじさん)」のクイットィアオ・ルア
8分 (700m)
- 2 ワット・アルン(暁の寺)
15分 (1.2k.m)
- 3 バーンルアン・モスク
8分 (600m)
- 4 ワット・カンナヤラナミット
3分 (280m)
- 5 キアン・アン・ケーン(建安宮)
8分 (650m)
- 6 サンタクルーズ教会
4分 (350m)
- 7 ワット・プラユラウォンサーワート
12分 (1k.m)
- 8 クーワティン・イスラム・モスク
1分 (70m)
- 9 シーナカリン王太后記念公園
6分 (500m)
- 10 ワット・アノン
3分 (200m)
- 11 ワット・ピチャイヤート



トンブリー地区
タイ仏教寺院、キリスト教会、
モスク、中国廟
〜クローンサーン



何を食べよう?

- 「ルン(おじさん)」のクイットィアオ・ルア(アユタヤ風米麺)
- クティチーン地区の洋菓子
- クティチーン地区の「バーンサントーン」
- ハロー・ノム・ソット(フレッシュ・ミルクと甘味)
- クルア・イムイェム
- リーリーカオサン・タイレストラン
- カオマンガイ(チキンライス)の「ムイリー(美利)」
- バーン・サパーンフット





* トンブリー地区

タイ仏教寺院、キリスト教会、モスク、
中国廟〜クローニンサーン



01

「ルン(おじさん)」のクイッティアオ・ルア (アユタヤ風米麺)

アルンアマリン通り、ワット・クルアワンのお向かいにあるクイッティアオ(米麺)の人気店です。お昼は麺類を中心に、夕方からはその他のおかずのメニューも充実しており、どれも美味しいと評判です。看板メニューのクイッティアオ・ルアは豚の血を用いたコクのあるスープが決め手のヌードルで、これに具として豚肉や牛肉などと好みで入れます。他にもトムヤム麺、すり身団子、豚の串焼き(サテ)、そしてデザートなど、行列のできるほどの人気です。営業は8:00~24:00。

02

ワット・アルン(暁の寺)

チャオプラヤー川西岸にトウモロコシ形の大きな仏塔がそびえ、バンコクを代表する風景とも言えるワット・アルン。三島由紀夫最後の長編小説の一つ『暁の寺(1970)』の舞台にもなりました。この寺院の創建について詳しいことは分かっていませんが、遅くともアユタヤ王朝時代にはワット・マコークという名で史料に記録が残されています。1767年、アユタヤ王朝がビルマとの戦に敗れ、新たにタークシン大王が現在のバンコクのチャオプラヤー西岸にトンブリー王朝を開いた時に、王宮寺院となりました。この時、後のバンコク(ラッタナコーシン)現王朝の創始者ラマ1世はタークシン大王の命を受け現在のラオスの首都ビエンチャンを制圧すると、戦利品として現在エメラルド寺院として知られるワット・プラケオに安置される仏像を持ち帰り、それがここに安置されていました。現在シンボリックな存在である大仏塔は須弥山を模ったもので、高さ75mあります。19世紀前半のラマ2世王の時代から建設が始まり、ラマ3世の時代に完成しました。色とりどりの陶器の破片を用いた繊細な装飾は当時の中国建築の影響を受けたもので、この時代のバンコクの寺院に見られる特徴の一つです。この仏塔は現在の10バーツコインの絵柄にもなっています。夜はライトアップされ、思わず息をのむ美しさです。日が暮れて涼しくなってからチャオプラヤー川越しに眺めるのも良いでしょう。



03

バーンルアン・モスク

ラマ1世の時代、1785年頃にタイに移住したムスリム商人によって建てられたと言われています。ドーム型のモスク建築ではなく、白く塗られた煉瓦と緑に塗られた木の柱が特徴的なタイ式の建築で「白いモスク」とも呼ばれています。内装もタイ、中国、ヨーロッパの様式が取り入れられています。現在では、このモスクは大きな通りには面しておらず、細い路地を歩いて入って行かなければならないため、時の流れから取り残されたような静かな雰囲気を残しています。





04

ワット・カンナヤラナミット

チャオプラヤー川西岸、ワット・アルンより南(下流)に位置し、ラマ3世の時代に創建されたバンコクを代表する古刹の一つです。巨大な本堂にはかつての古刹であるアユタヤのワット・パナンチューン同様、「三宝公」と呼ばれる金色の大仏が安置されています。「三宝公」は主に華人たちの崇拝の対象となっていました

が、ちょうどアユタヤ王朝の王宮の対岸にあったワット・パナンチューンと同様、バンコク(ラッタナコーシン)王朝の王宮からちょうど川の対岸に位置しています。また、布薩堂には、岩に腰かけたような姿勢の変わった仏像が安置されています。このような形の座像が堂の中央に安置されているのはタイでもこの寺院だけです。ブツダの生涯を描写した素晴らしい壁画や、鮮やかな色彩の中国風の寺院建築の装飾もこの寺院の見どころです。

キアン・アン・ケーン(建安宮)

チャオプラヤー川の西岸、ワット・カンナヤナミット(仏教寺院)とサンタクルーズ教会の間に古くからある中国廟です。アユタヤ王朝が滅び、タークシン大王がこの地まで下って来た頃に定住した福建系華人らによって建てられました。創建時は福建省安溪の守護神とされる清水祖師を祀る清水祖師廟と、三国志でお馴染みの関羽を祀った関帝廟が並んで建てられていましたが、時代の流れの中で建物が傷んだため、後世の福建系華人らによって現在の廟に改修されました。今日では本尊として観音像を祀っています。

05



06

サンタクルーズ教会

チャオプラヤー川西岸にあるカトリック教会です。トンブリー王朝時代、タークシン大王が対ビルマで協力をしたポルトガル人らに土地を与え、後の1770年、この地に教会が建てられました。教会の建物は1833年に火災で焼失した後に再建され、その後、建物の老朽化と規模の拡大の必要性から1916年に再度建て直されて現在に至ります。現在の建築はルネサンス様式で、イタリアはフィレンツェの大聖堂のようなドームや美しいステンドグラスが特徴です。今日でも地域の重要な宗教施設として多くの信者が集まります。



07



ワット・プラユラウォン サーワート

ラマ3世の時代の貴族で高官であったティット・ブンナークが1828年に自身のコーヒー農園であった土地に建てた寺院です。ユネスコからアジア太平洋文化遺産保全賞(最優秀賞)を受賞しています。このお寺の周囲は一部鉄柵で囲まれているため、庶民からは「ワット・ルアレック(鉄柵の寺)」とも呼ばれています。この鉄柵はティット・ブンナークがラマ3世の宮殿のために絨毯やシャンデリアと共にイギリスから取り寄せたものでしたが、王はこれをお気に召さず、結果これを王から引き取って寺院の建設に用いたと伝えられています。当時ロンドンを訪れたタイ人の政府高官の記録などにも、このような鉄柵はロンドンでよく見られたと記されています。

08

クワフティン・イスラム・モスク

サバーン・ブット(ブット橋)近くのチャオブラヤー川西岸にあるモスクです。当初は貴族で高官であったタット・ブンナーク(ティット・ブンナークの弟)の管理する土地でしたが、この地域には優れた職人を多く輩出したタイ最南端のバツタニー出身者や商才に長けたインド系のムスリムが多く住んでおり、彼らが日常的に礼拝のできるモスクがこの地域に無かったことから、土地がムスリムに与えられ、1859年にこのモスクが建てられました。



09

シーナカリン王太后記念公園

ラマ8世とラマ9世大(故ブミボン前国王)の母上であるシーナカリン王太后が若い頃に暮らしていたこの地域の古い建物を保存するという前国王のご意志に基づき、1993年に博物館と公園として整備することで、市民の憩いの場となりました。公園内にはシーナカリン王太后の業績についての展示のある博物館の他、前国王の姉上であるカラヤーニワッタナー王女の御著書『メー・ラオ・ハイ・ファン(母が聞かせてくれた)』を元に当時の王太后の住居が復元されています。園内は美しく整備され、緑の中に佇むかのように王太后の彫像が置かれています。

10

ワット・アノンカーラーム (ワット・アノン)

ラマ3世の時代に、実力者であったタット・ブンナークの妻によって夫の建てたワット・ピチャイヤートと対になるように建てられた寺院です。元は彼女の名にちなんでワット・ノイカムテムと呼ばれていましたが、後にラマ4世によって現在の名前を与えられました。寺院の装飾が大変優美であることで知られ、スコタイ時代の仏像が本尊として安置されています。また、寺院内にはクローンサーン区郷土博物館も設置されており、この地区の歴史や人々の生活文化について紹介しています。



11

ワット・ピチャイヤートカーラーム (ワット・ピチャイヤート)

クローンサーン区、サバーンブット(ブット橋)の近くの運河沿いにある寺院です。元は廃寺でしたが、政府高官で実力者であったタット・ブンナークが改修を命じ、中国からの貿易船(帆船)との貿易拠点とされました。寺院の建築はタイと中国の折衷様式です。現在、「過去に犯してしまった過ち(カルマ)を償う方法」について独自の思想が広く支持されるトッサポーン尼僧が住するお寺としても知られています。



バンランプー、 ワンナー、 ターティアン



何を食べよう？

- アイーサ・ロットディー
- ランター・ピザ
- お粥の「ポーウォーン」
- イン・ア・デー
- サウオイ・シーフード
- ワンラン・ベーカリー(ターチャー)
- ラップ・アルン
- イート・サイト・ストーリー

f AmLinkSketchBooks

กรมส่งเสริมการค้าระหว่างประเทศ
สำนักงานส่งเสริมการค้าในต่างประเทศ
TAT BANGKOK



#walkingbangkok
#walkingbkk



写真を撮ろう！

- プラナコン区郷土博物館
- バンランプー・ミュージアム
- 硬貨博物館
- ワット・マハータート
- ラマ5世記念資料館
(ターウォーンワトゥ館)
- 彫刻美術館



おすすめルート

- プラナコン区郷土博物館
2分 (40m)
- バンランプー・ミュージアム
9分 (950m)
- 硬貨博物館
4分 (850m)
- ランター・ピザ
4分 (850m)
- タンマサート大学
4分 (850m)
- ワット・マハータート
4分 (850m)
- ラマ5世記念資料館
4分 (800m)
- 彫刻美術館
11分 (900m)
- ターティアン市場

*バンラプー ワンナー ターティアン

チャオプラヤー川東岸
クラシックなバンコク散策



01 プラナコン区郷土博物館

バンコクの各区では地域の沿革や生活文化について学ぶことができる郷土博物館が27の区に設置されており、その歴史は1913年にまで遡ります。ここプラナコン区の郷土博物館は三角屋根のタイ式木造二階建ての建物で、かつては警察幹部の邸宅でした。古い時代の貴重な物品が数多くの保存・展示されており、ラマ1世によるバンコクへの遷都からのタイの歴史について詳しく知ることができます。



02

バンラプー・ミュージアム

プラアティット通りのバンラプー運河脇にあるこの博物館は、造幣局によって創設されました。プラスチックの岩のすぐ隣にあります。もともとタイ教育評議会の印刷場であったこの瀟洒な建物は、造幣局によって改装され、ここバンラプー地区の歴史や人々の生活の様子の変化について楽しく学べる博物館に生まれ変わりました。





03

硬貨博物館

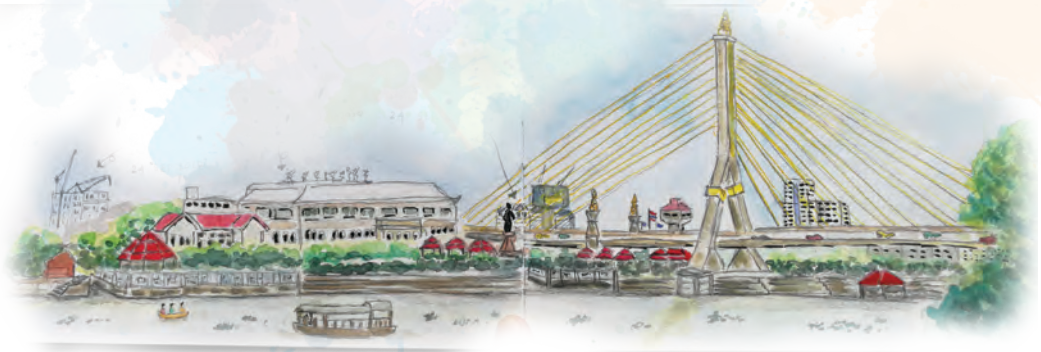
タイの経済、社会、文化芸術の変遷を記録する記念硬貨の重要性を広く人々に伝えるため、造幣局がチャクラボン通りにある古い事業所を改装して開設した博物館です。博物館の内部には、展示スペース、図書室、そして貨幣に関する知識を深めるイベントルームがあります。

04

ランター・ピザ



カオサン通り界隈で絶大な人気を誇るピザの有名店です。炭火の窯で焼かれるピザはチーズがたっぷり載せられ、その香が食欲をそそります。人気のメニューは、シーフード、ハワイアン、ほうれん草、それにラザニアも是非試したい一品です。営業時間は11:30～22:30。ピンクラオ橋のたもと、国立劇場お向かいにも店舗があります。



05

タンマサート大学

1934年に、タイの首相や元老を務めた「民主主義の父」ブリーディー・パノムヨン博士によって設立された国立総合大学です。タイではチュラロンコン大学に次ぐ歴史を持つ大学で、今日でもチュラロンコン・タンマサート対抗戦などのスポーツの大会は大変な盛り上がりを見せます。旧王宮にもほど近く、キャンパス内に初期のバンコクの城壁の跡が残るなど、歴史的にも重要な場所です。観光客にも開放されており、サイクリングコースもあり、無料でシャワーを使うことができます。



07

ラマ5世記念資料館(ターウォーンワトゥ館)

ワット・マハータートの王宮前広場に面した所にあるターウォーンワトゥ館にラマ5世記念資料館があります。この建物は王族の葬儀(火葬)を執り行う王宮前広場のちょうど西側に位置しており、須弥山を模った火葬塔の西側に王族が遺族を供養するための建物を建てるという伝統に従いラマ5世が建てたものです。その後ラマ6世の時代に図書館となり、後にラマ5世の崩御100周年を経て王の経歴に関する展示が行われるようになりました。



08

彫刻美術館

旧タープラ宮殿のほど近く、ナープラタート通りの芸術局内にあるギャラリーです。ここでは彫刻芸術に関する様々な資料が集められ、教育・研究の中心であるばかりでなく、展示会も開かれています。天井の高い広々とした展示室には、多くの人間国宝による彫刻作品のマスターピースが展示されています。特に「タイ近代美術の父」と呼ばれるイタリア人彫刻家、シン・ピーラシー(本名: コッラード・フェローチ)(1892~1962)やその弟子たちの作品は一見の価値があります。シン・ピーラシーは戦勝記念などの製作・監督を務めるとともに、タイの近代美術教育に多大な貢献をし、後に開学した国立芸術大学(シラパコーン大学)でも教鞭を執りました。



06

ワット・マハータート

アユタヤ王朝時代からある古刹で、元はワット・サラックと呼ばれていました。ラマ1世大王がバンコクのチャオプラヤー川東岸のラッタナコーシン島に王都を築いた際に改修され、王宮と副王宮(現在の国立博物館)の間に位置するようになりました。その後、旧王都であるアユタヤにて歴代王のご遺体を安置し、法王のいる寺院にちなんで「ワット・マハータート」と改名されました。ラマ5世の頃までは王族のご遺体がこの寺院に安置されていました。現在では仏教学の中心的役割を果たす寺院としても知られ、マハーチュラロンコン・ラーチャウィタヤーライ大学という仏教大学が併設されています。

このお寺の西側、チャオプラヤー川に挟まれたエリアには、タイ式のお守り(ブラ・クルアン)のお店が多く並び、年配のタイの人々が熱心にお目当てのお守りを探す姿を見ることが出来ます。



ターティアン市場

ターティアンと呼ばれるチャオプラヤー川の船着き場周辺は、経済、交通、文化の中心地としてバンコクに王都が作られた初期の頃からバンコクを代表する商業地区でした。当時は市場と船着き場を中心に多くの物資がタイ国内外からたくさん集まっていたといいます。また、この市場は王族用の日用品を入手する市場でもありました。今日では主に海産物の干物を扱う古いお店が多く残っていますが、古い建物をセンスよく改装し、居心地の良いカフェやレストラン、そして川向こうにワット・アルン(暁の寺)を望むホテルなどが次々とオープンし、観光客にとって再び魅力的なエリアとなりつつあります。

09





大ブランコ、ディンソー通り、 チャオポースア廟 ラッタナコーシン島の中心部



何を食べよう？

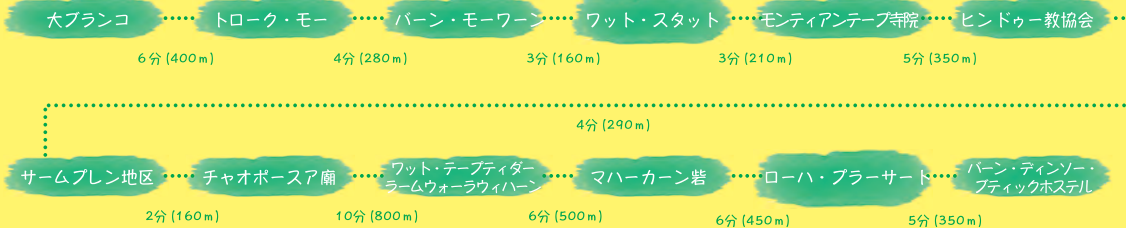
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 昔風コーヒーの「コビ・ピア・タイキ」 チャーシューご飯の「サナム・ルアン」 イェンタフォ(映画館)の「付ーイ・ウアン」 クイチャイ(牛車頭の)「ジェー・トイ」 カオマンガイ(子キンライスの)「ランファー」 グリルチキンの「ガイヤン・ボラン」 あんかけ種の「ラトナ40年(スイスシブ・ピル)フントーン | <ul style="list-style-type: none"> キムトーン チョーットット(アレン・ブートン) 豚の脳みそ団子の「タイタム」 アイスクリームの「ナッタポーン」 チャーシューご飯の「ウドム・ボーチャナー」 バーンディンソー・ブティックホテル 焼き豚の「ナランファー」(アレン・ナラー) アレン・ナラーのタイ風クレープ |
|---|--|



写真を撮ろう！

- 大ブランコ
- ワット・スタット
- モンティアンテーブ寺院
- ヒンドゥー教協会
- チャオポースア廟
- ワット・テーブティダーラーム
- マハーカーン岩
- ローハ・ブラーサート

おすすめルート



Walking
Bangkok



#walkingbangkok
#walkingkk

AnnLinkSketchBooks



การท่องเที่ยวแห่งประเทศไทย
สำนักงานกรุงเทพมหานคร
TAT BANGKOK

大ブランコ ディンソー通り チャオポースア廟

ラッタナコーシン島の中心部



トローク・モー

02

トローク・モー(モー小路)地区は、ワット・ブラケオ(エメラルド寺院)からほど近い古くからある市場です。食材はもちろん、安価で大変美味しいお惣菜、その他季節ごとの植木や衣料品、日用品に至るまであらゆる物が売られています。市場は5:00～11:00頃開かれます。

04

ワット・スタット

第一級王室寺院であるワット・スタットは、ラマ1世の命により、建設が始まりました。しかし、ラマ1世、そしてラマ2世ともに、この寺院の完成前に亡くなり、次のラマ3世王の時代にやっと完成しました。本堂には、スコータイから運ばれてきた釈迦牟尼仏の大仏像が祀られ、大変美しい壁画や門、装飾が見どころです。バンコクでも最大級の寺院でありながら、外国人観光客の数は少なく、タイの仏教寺院本来の雰囲気に触れることができるでしょう。



01

大ブランコ

ワット・スタットの正面にある大ブランコは、王室がバラモン・ヒンドゥー教の儀式に用いるために建てられました。この儀式はラマ7世の時代からは行われていませんが、丸い基盤の上にそびえ立つ赤い鳥居にも似たチーク材の大ブランコは歴史あるバンコクのランドマーク的な存在です。芸術局はこの大ブランコを国の重要史跡に指定し、2006年に修復をしました。



03

バーン・モー ワーン(ワーン 先生の家)

大ブランコの近く、バムルムアン通りにあるバーン・モーワーンは、かつて名医として有名であった医師、ワーン・ロートムアン先生の開いた薬局です。今日でも伝統的な調薬を行う薬局として健在で、その秘伝薬は100年以上前と全く同じ方法で調合されており人気があります。薬局内には古めかしい道具がいっぱいで、歴史を物語ります。



して有名であった医師、ワーン・ロートムアン先生の開いた薬局です。今日でも伝統的な調薬を行う薬局として健在で、その秘伝薬は100年以上前と全く同じ方法で調合されており人気があります。薬局内には古めかしい道具がいっぱいで、歴史を物語ります。

05

モンティアンテープ寺院(ヒンドゥー寺院)

大ブランコの近くにあるヒンドゥー教徒協会とパラタウィタヤーライ学校の創設の後、建てられたヒンドゥー教寺院です。建立にあたっては、同協会によってルンピニー、ブッタガヤ、サールナート、そしてクシーナガラの4大仏教聖地から聖なる土が運ばれてきました。



寺院内部にはヴィシュヌ神、ナーラーヤナ神(ヴィシュヌ神の異名)とその妻ラクシュミーなど、大理石で作られたたくさんの神像が祀られており、たくさんの参拝客で賑わっています。多くの人は恋愛成就を願って参拝しています。

06

ヒンドゥー教徒協会

タイに住むインド人ヒンドゥー教徒らによって、彼らのコミュニティーの結束を深めるため、ワット・スタットや大ブランコの近くに創設されました。協会内にはシヴァ神、ガネーシャ、ナーラーヤナ神を祀る3つの神殿をはじめ、1987年には宗教や芸術文化に関する書籍を集めた図書室も開設されました。



07

サムプレン地区

バンコクの古い集落で、かつて三つの宮殿があったことからサムプレン(三つの交差点)と呼ばれています。

(1) プレン・ブートーン

ラマ4世の第24番目の王子であるブータレートタムロンサク親王の宮殿のあったこの辺りは、三つの「プレン」の中で最も賑やかです。この辺りを歩けば美味しい料理店がたくさん軒を並べています。

(2) プレン・ナラー

ラマ4世の第56番目の王子であるナラーティップブラパンボン親王の宮殿のあった場所です。親王は演劇、音楽、詩などに精通する文人として名高く、よって

当時は舞台芸術の中心的地区でした。現在ではタイ伝統菓子をお店が軒を並べる甘党横丁となっています。

(3) プレン・サンパサート

かつては大変美しい建築の宮殿がありましたが、火災により

門の一部を残すのみとなっています。今日では、他の二つのプレン同様、料理店やお菓子屋が数多くあります。



チャオポーシア廟

08

ラマ5世の時代に道教を信仰する潮州系の華人によって建てられた聖廟です。玄天上帝を祀った廟で、さらに関帝(関羽)と天后(媽祖)のレリーフもあり、信仰の対象となっています。健康長寿、家内安全、商売繁盛、さらには厄払いに至るまで、あらゆる願い事を持った皆さんの人々が日々参拝しています。



ワット・テープティダーラーム

09

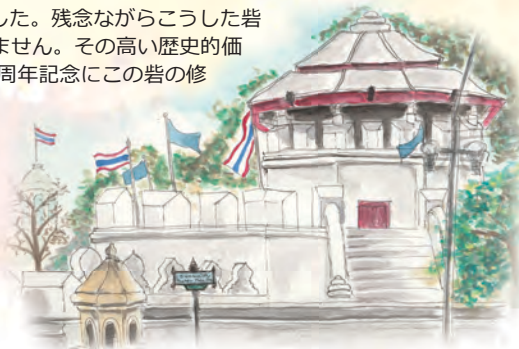
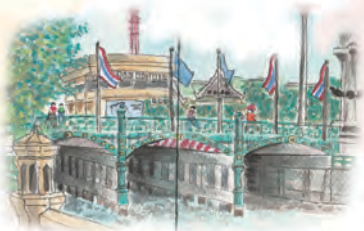
この寺院はラマ3世が王女のために建てた寺院です。タイの詩聖とも呼ばれるスントーン・プーが一時出家をして身を寄せていた寺院として知られ、彼の過ごした僧房と博物館があります。スントーン・プーはラマ2世の時代に文才を認められ平民の生まれながら官位を授かるものの、酒癖が悪く酔った勢いで王族を殴ったことから投獄されたり、出家先で飲酒をしたことで破門となりた中部のアユタヤやスパンブリーを放浪するなど、歴史に残る名作とは裏腹に実に人間味あふれる波乱の人生を送ったことで人々から親しまれています。



マハーカーン砦

10

パンファーム橋近くにあるマハーカーン砦は、ラマ1世の時代に王都を守るために建てられた14の砦のうちの一つです。周囲を二重の堀で囲まれた八角形の砦で、バンコクの東を守る砦でした。残念ながらこうした砦は現在バンコクには2つしか残っていません。その高い歴史的価値により、芸術局はバンコク遷都200周年記念にこの砦の修復を行いました。



11

ローハ・プラーサート

ワット・ラーチャナッターラームのローハ・プラーサートは、大小の尖塔が連なる独特の様式美を誇る建物で、この様式のものはいンドとスリランカ、そしてタイに3つあるのみとされ、現存しているものはここだけとなっています。仏塔の最上部には仏舎利が納められています。建物は何度も修復されており、現在金色に装飾された尖塔も全てくすんだ黒でシックな装いであった時代もありました。塔の上からは、バンコク旧市街全体の景色を見渡すことができます。



12

バーン・ディンソー・ブティックホテル

コロニアル様式の木造二階建てでラマ6世王の時代から100年近くの歴史のある建物を改装し、おしゃれなホテルとなりました。古い建築の良さはきちんと保存された改装の在り方は高く評価され、サイアム建築家協会からも歴史建造物保存賞を受けています。



写真を撮ろう!



- チャオメータップティム廟
- 聖フランシスコ・サビエル教会
- コンセプション教会
- ワット・ラーチャーワート
- ワット・テワラートクンチョーン

おすすめルート

- チャオメータップティム廟 (水尾娘聖廟) 3分 (200m)
- バーンユアン市場 (ベトナム系集落の市場) 4分 (300m)
- 聖フランシスコ・サビエル教会 4分 (290m)
- コンセプション教会 5分 (川沿いの歩道)
- ワット・ラーチャーワート 14分 (1.1km)
- ワット・テワラートクンチョーン 2分 (100m)
- テワラート市場



#walkingbangkok
#walkingbkk



サムセン〜テウエート

何を食べる?

- 朝のバーンユアン市場
- クルア・アプソーン
- 魚肉団子種の「林和興」
- チャーシューご飯の「ナイ・キウ」
- カオマンガイ(チキンライス)の「モンコンチャイ」
- カオソイ(北タイ風カレー類)の「メー・スバープ」
- クルア・クックチョム
- シフォン・ベーカリー
- タイ風クレープの「クン・ダーオ」

メモ

- このルートの散策を終えたら、夕方はテウエート地区で食事を楽しみましょう。美味しいお店がいっぱいです。

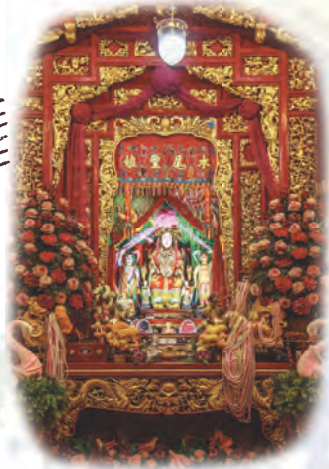
- または、テウエート船着き場からチャオメータップティム廟に向かって逆方向に歩くのも良いでしょう。

AnnLinkSketchBooks



*サムセーン〜 テーウエート

ベトナム、クメール系集落と
チャオプラヤー川沿い散歩



01

チャオマー タップティム廟 (水尾娘聖廟)

海南島系の華人たちによって建てられた古い廟で、クルントン橋の近くにあります。水尾聖娘の像は巨大な流木から彫られたもので、参拝をするとご利益があると評判で、多くの人たちが訪れています。



02

バーンユアン市場 (ベトナム系集落の市場)

サムセーン通りソーイ13の聖フランシスコ・ザビエル教会の近くにある小さな市場です。毎朝、路地の両側にたくさんの屋台や露店が並びますが、特に日曜日の朝は教会を訪れるキリスト教徒が多く集まるので、食べ物のお店が充実しています。もともとベトナムから移住してきた人たちの集落であったことから、美

味しいベトナム料理のお店が多く並ぶことで有名です。

03

聖フランシスコ・ザビエル教会

タイでラマ3世の時代、ベトナムではフランスの勢力に反対する王権によりキリスト教への弾圧があり、多くのベトナム系キリスト教徒たちがタイの東海岸地方やバンコクにやって来ました。この教会は、もともと彼らのために一時的に建てられたもので、当初は竹で建てた簡素なものでした。しかし1837年の悪天候によりこの建物は損壊し、バンコクの使節団の支援により、木造の教会に建て替えられ、さらに信者の数が増えたために寄付を募り、10年の歳月をかけてヨーロッパの様式でレンガ造りの教会へと生まれ変わりました。





04 コンセプション教会

サムセン通りソーイ11、
チャオブラヤー川沿いにある
カトリック教会です。
古くはアユタヤ王朝、当時
シャム(現在のタイ)には
多くのポルトガル人が住
んでいました。彼らは
貿易のみならず、公務員
や軍人としてシャムに仕
える者も多かったと言
います。ビルマとの戦争が絶

えなかった当時、このポルトガ

ル人傭兵の活躍が目覚ましく、ナーラーイ大王によって報奨としてこの土地が与えられたのです。そして1674年に教会が建てられました。ラマ1世の時代にはクメール(現在のカンボジア)人もこの土地に住むように許可され、続いてラマ4世の時代にはそこにベトナム系移民も加わりました。

05 ワット・ラーチャーワート

バンコク(ラッタナコーシン)王朝の祖であるラマ1世の弟君であるマハースラシンハナート親王によって建てられた古い寺院で、その後ラマ4世の時代まで継続的に修復・拡大を繰り返しました。ラマ4世によって名付けられたこのお寺の名前は「王の在る寺院」という意味で、タイ仏教の中で正統派とされるタマユット・ニカーイ(タマユット派)発祥の地とされています。



06 ワット・テーワラートクンチョーン

アユタヤ王朝時代から既にあった古い寺院でした。ラマ1世からラマ4世の時代に渡って、修復と拡大が繰り返され、現在に至ります。本堂にはアユタヤ王朝時代に作られたマーラウィチャイ仏と呼ばれる仏像が安置されています。また、三角屋根で二階建ての古い僧坊も修復されており、チーク材博物館が開設されました。建材として重宝されるチーク材の保存について知ることができます。



07

テーワラート市場

テーワラート(通称テーウェート)市場は、バンコクの中でも最も古い市場の一つです。大きく分けて、食品を扱うゾーンと植木を扱うゾーンがあります。市場のお向かいの通りにもたくさんの食材・お惣菜屋さんが並び、買い物客で賑わっています。特に活気あふれるのは早朝です。



写真を撮ろう!



- アサンブション大聖堂
- ハールーン・モスク
- バンコク民俗博物館
- スープサンバンタウォン教会
- ワット・ケーク(インド寺院)



おすすめルート

- ター・サートーン (サートーン船着き場) 2分 (120m)
- バンラック廟(昭應廟) 6分 (450m)
- ワット・スワンブルー 4分 (300m)
- アサンブション大聖堂 8分 (600m)
- 旧税関 1分 (30m)
- ハールーン・モスク 5分 (400m)
- TCDC (旧中央郵便局) 8分 (600m)
- バンコク民俗博物館 13分 (1.5k.m)
- スープサンバンタウォン教会 9分 (700m)
- ワット・ケーク(インド寺院)



バンラック ~シーロム



何を食べる?

- 豚足ご飯の「トローク・スン」
- 「プラチャック・ベツヤーン」(焼き家鴨)
- 漢方清涼飲料の「モン・ウォー(茂和)」
- おじやの「プリンス」
- イスラム料理の「ホーム・キュジーン」
- 豚足ご飯の「ナイ・クワン」
- ニウ・ヘン・キー(新恒記)
- 昔風アイスクリームの「ホンファット(豊發)」
- 「チウ・カオモックガイ」(イスラム風チキンライス)
- パール・ベーカリー・バー

Walking Bangkok

#walkingbangkok
#walkingbkk

AnnLinkSketchBooks

กรุงเทพมหานคร
สำนักงานการท่องเที่ยวและกีฬา
TAT BANGKOK

* バンラックへ シーロム

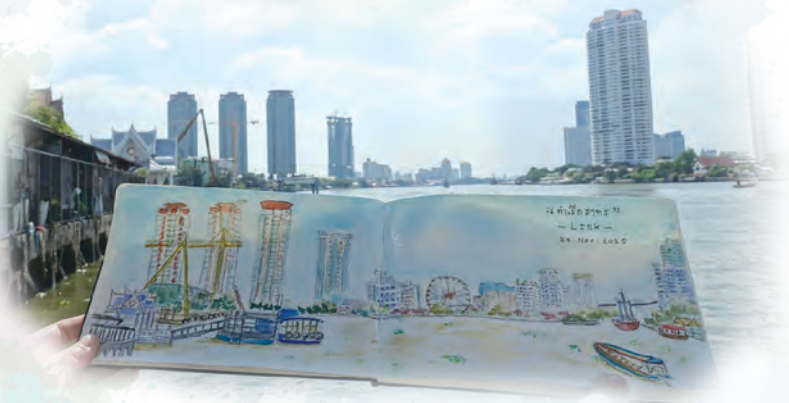
タイ・中・洋・
インド、多様な文化に
触れてみよう



01

ター・サートーン (サートーン船着き場)

バンコクを代表するオフィス街、繁華街であるサートーン通り、シーロム通り、そしてチャルンクルン通りに近く、2017年現在BTSスカイトレインのサパーン・タークシン駅に接続する交通の拠点となっています。船着き場には、通勤・通学・観光に便利なチャオプラーヤ・エクスプレス・ボートの他、トンブリー地区への渡し船、各ホテルやアジアティーク(商業施設)への連絡船、さらにトンブリー地区の運河観光のボートなどが集まります。



02

バンラック廟(昭應廟)

今から150年以上前、中国は海南島から108人の商人が帆船に乗ってここバンラックまでたどり着きました。しかし、その後ベトナムに寄港した際、海賊と間違えられて殺されてしまいました。この廟は彼らを偲んで建てられたと言われています。中国の貿易商人たちが参拝し、航行の安全や商売繁盛を願いました。





03

ワット・スワンプルー

チャルンクルン通りにある古刹で、昔はお寺の周囲がチャオプラヤー川支流の運河で囲まれていました。布薩堂はそれほど大きなものではありませんが、堂の正面などは漆喰や色ガラスで精密な装飾が施され、大変美しく、すぐ後ろにそびえ立つ近代的な超高層ビルと対照的です。また、布薩堂の後ろには池の真ん中に立つタイ風東屋建築の観音菩薩堂、さらに涅槃仏を安置したお堂もあり、多くの地元の人々が参拝に訪れます。

04

アサンプション大聖堂

マンダリン・オリエンタル・バンコク(オリエンタルホテル)から小道を挟んでお向かいにある赤煉瓦で造られたロマネスク風の壮麗な聖堂です。現在の聖堂はフランス人建築家の設計と監督のもと、1910年から8年の年月をかけて建設されたもので、今日はバンコク大司教区が設置され、まさにタイにおけるカトリックの中心地となっています。内部も大変美しい聖堂ですが、ミサの時間帯は信者以外の一般観光客には公開されていません。



の一般観光客には公開されていません。

旧税関

05

マンダリン・オリエンタル・バンコク(オリエンタルホテル)にほど近いチャオプラヤー川沿いに位置しています。ラマ5世の時代、1888年に税関として建てられた建物で、当時の国家の近代化の中で西洋建築を積極的に取り入れた時期を代表するものです。当時、この辺りがタイの貿易のゲートウェイとして栄えていました。歴史的に大変価値のある建物ですが、現在は老朽化で傷みが激しいため、近い将来、この建物を保存・再生させるためのプロジェクトが考えられています。



ハールーン・モスク

06

ラマ3世の時代に、インドネシアからタイに移住したトハールーン・パファデンという人物によって、建てられたモスクです。当初はチーク材で作られた建物でしたが、その後建物が老朽化したため、現在のものに建て替えられました。初代のモスクの建材であったチーク材は、現在のモスクでも床や、柱などに用いられています。モスクの内部は金、



緑、赤のトーンでシンプルながら美しく、壁の上部に天井を囲むようにアラビア文字が大きく書かれているのが印象的です。

TCDCタイ・クリエイティブ&デザインセンター(旧中央郵便局)

07

タイの郵便局の歴史はラマ5世の時代に遡ります。ここはタイで最初の郵便局で、ラマ8世の時代にネオ・クラシック様式を取り入れた近代西洋建築に建て替えられました。そのデザインはシンプルで時代の最先端を行くものでした。建物正面には2体のガルダ像が掲げられ、タイ的なアクセントを加えています。現在、この建物はTCDCタイ・クリエイティブ&デザインセンターとして生まれ変わり、クリエイティブ&デザイン関係の展示、セミナー、ワークショップなど、次世代のタイの活力を体感できるスペースとなっています。



08

バンコク民俗博物館
(バンコク・フォーク・ミュージアム)

バンコク都バーンラック区郷土博物館でもあるこの博物館は、国立シーナカリンウィロート大学の助教授であった故ワラーポーン・スラワディー女史(2017年に他界)が自宅を博物館とし、バンコク都に寄付したものです。バーンラック地区の歴史について学ぶことができる他、第二次世界大戦前後のバンコクの中産階級のモダンな生活の様子を今に伝える展示は、現代のバンコク都民にとっても大変貴重なものとなっています。



09 スープサンパンタウォン教会

ラマ5世の時代、1903年に完成した白く美しい教会です。当時、タイの近代化と国家の発展が勢いを増す中で、キリスト教教育を実践するバンコク・クリスチャン学校が開校、それに合わせて卒業生たちが新しい時代のタイ社会で活躍してゆくための拠点として、教会がこの学校のすぐ近くに建てられました。創設者は、タイにおける初期プロテスタントのリーダー的存在であったブントゥアン・ブンイット宣教師。「ハボン式ローマ字」で知られ明治学院の創設者であるJ.C.ヘボンと同じアメリカ合衆国長老派教会のアドバイスを受け、タイ人によって建てられた最初の教会となりました。



ワット・ケーク(インド寺院)

10

正式名称はワット・ブラシーマハーウマーデウィー、1879年にタミール系のインド人によって建てられました。1858年に祖国インドがイギリスの植民地となったために、海外に出るインド人が多くいました。バンコクにも特に南インドから多くの人々がやって来て、新しい生活の拠点を築きました。シーロム通りに面して南インド様式の建物が大変目立つヒンドゥー教の寺院です。寺院の周辺にはお供え物などを扱うお店が並び、門前町独特の雰囲気があります。仏教国のタイですが、ヒンドゥー教の影響も大きく受けており、この寺院のお祭りは周囲の大通りを歩行者天国にするほどの賑わいを見せます。





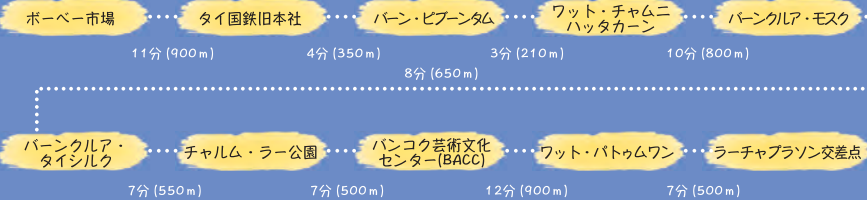
ボーベ市場～ ラーチャプラ ソン交差点



写真を撮ろう!

- タイ国鉄旧本社
- バーン・ピブーンタム
- ワット・チャムニハッタカーン
- バンクア・モスク
- バンクア・タイシルク
- チャルム・ラー公園
- バンコク芸術文化センター(BACC)
- ワット・パトゥムワン
- ラーチャプラソン交差点

おすすめルート



何を食べる?

- ボーベ市場
- ハングリー・ナード(Hungry Nerd)
- ドーイ・カム

Walking
Bangkok

#walkingbangkok
#walkingbkk

f AnnLinkSketchBooks



การท่องเที่ยวแห่งประเทศไทย
สำนักงานกรุงเทพฯ
TAT BANGKOK

* ポーペー市場～ ラチャプラノ交差点



01

ポーペー市場

バンコクでもおそらく最も大きく、そして最も安く衣料品が手に入る市場と言っても過言ではないでしょう。タイ国内外からの買い付け向けの卸売から一般向けの小売りまで様々な衣料店が集まります。衣料品以外にも時計、カバン、靴などの店舗も多くあります。市場は朝7時から開きますが、外側の卸売りゾーンは深夜の2時頃から賑わいます。



02

タイ国鉄旧本社

日本では1872年に新橋～横浜間で鉄道が開通しましたが、この時代、タイでも国家の近代化が急速に進められていました。タイの鉄道は、ラマ5世の命で1894年にバンコク～ナコンラーチャシーマー間が開通しました。当時のバンコク駅はドーム型のフアランプーン駅(1916年完成)よりも若干北に位置し、ちょうどこのタイ国鉄旧本社のあたりだったと言われています。西洋人技師たちの管理・指導を経てシャム王国国有鉄道局として発展を遂げた後、1951年に運輸省の下部組織であるタイ国有鉄道となり、現在に至ります。国内に4000 kmを超える路線網を持ち、その規模は東南アジア随一です。高速鉄道網の整備計画も具体化しており、鉄道がタイ社会において果たす役割に大きな変化が訪れよ

うとしています。

03

バーン・ヒブーンタム

1913年にラマ6世が当時の宮内庁長官に当たる高官に下賜した邸宅で、現在はエネルギー省の管理する建物となっています。当時人気のあったヨーロッパ風の2階建ての邸宅で、窓枠や内装にはチーク材をふんだんに用い、外装の装飾もモダンで優美です。

タイ国鉄のターミナルであるフアランポン駅に隣接していたため、第二次世界大戦時に連合軍による空爆で大きな損傷を受けましたが、今日2棟の洋館が当時の美しい姿に修復・保存されています。



04

ワット・チャムニハッタカーン

ヨッサー橋近くにある小さな仏教寺院です。創建がいつであるかははっきりとした証拠は見つかっていませんが、建築様式などからバンコク(ラッタナコーシン)王朝の初期に建てられた大変古いものであると考えられています。中国の影響を受けた建築が特徴的で、布薩堂には漆喰や色とりどりの陶器を用いた装飾が残っており、創建当時の様子を思い起こさせます。



05

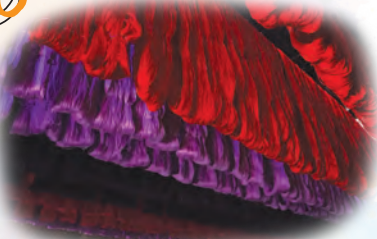
バーンクルア・モスク

比較的に規模の大きなムスリムのコミュニティであるバーンクルア集落にあるモスクです。チャム族の出身の軍人でタイの国王から官位を受けた有力者によって、バンコク(ラッタナコーシン)王朝初期に建てられました。後のラマ3世の頃になると、タイ最南端のパッタニーのマラユ人たちが集落を成しました。今日この集落の住民は、祖先がタイの国土を守るために活躍し代々官位を授かってきたことを誇りにしています。



06 バンクルア・ヌア シルク工房の集落

世界的に有名なタイシルクの「ジム・トンブソン」が、伝説のタイシルク店だとしたら、ジム・トンブソンの家に隣接するバーン・クア集落のシルク職人たちはそれを縁の下で支えてきたと言えるでしょう。かつてこの集落の住民たちはみなシルクの織物を生業としていました。ジム・トンブソンはこの集落のシルクの品質に惹かれ、自身の店舗で販売する商品を発注していたと言います。今日でもバンクルアのシルク職人たちはその伝統を守りつつ、さらに新しい模様や色彩を生み出し発展を続けています。この集落のシルクは特に色鮮やかなことで人気があります。ソーイ・カセームサン3を入り、突き当りのセーンセーブ運河沿いにバンクルア集落があります。



07

チャルム・ラー公園

この公園は、周囲を取り囲む雑居ビルの側壁に描かれたグラフィティ(エアソールアート)が圧巻で、多くの人たちが写真を撮っています。開園時間は5:00~19:00、BTSスカイトレインのラーチャターウィー駅からパヤータイ通りを南に200mほど進むと左手にあります。

08 バンコク芸術文化センター(BACC)

1994年、タイの現代芸術家ネットワークが国立シリキット・コンベンションセンターに集結し、作品を展示したことがプロジェクトの始まりです。精力的な運動が盛り上がる中、多くの優れた芸術家の作品を展示・保存し、交流の場として活用できるスペースが求められているという気運が高まり、バンコク都によって建設が決定しました。都心部の大きな交差点に面した一等地であるため、一時プロジェクトが白紙撤回され、商業施設として開発されそうになるなどの紆余曲折を経ましたが、2008年タイの芸術家たち、そしてバンコクの都民はこの芸術文化センターを勝ち取りました。地上9階地下2階、中央が吹き抜けで明るい天然光を取り入れ、筒状の建物で、内部にらせん状の通路が回廊上に配置されているため、作品を眺めながら歩くことができます。ギャラリーの他にも、オーデトリウム(222席)、多目的ホール(300席)、スタジオ(350席)、会議場、イベントスペース、そしてアートショップやレストランなども充実して、文字通り芸術文化の殿堂と言えます。10:00~21:00、月曜休館です。



09 ワット・パトゥムワン

ラマ1世通り沿いのサイアム・パラゴンと、セントラルワールドというバンコクの代表する二大ショッピングモールに挟まれた立地で、今日まさに都心に残されたオアシス的な寺院です。ラマ4世が郊外(当時のバンコクの中心は王宮周辺)の別荘地としてサ・パトゥム宮殿を建設すると同時に、王の二人目の妃(後のラマ5世の母君)のために建てられました。しかし、妃は寺院の完成を見ることなくこの世を去られてしまいます。故プミポン前国王の父君であるマヒドン・アダウンヤデート親王に続く代々の王族のご遺骨を埋葬したお寺でもあります。



10

ラーチャプラソン交差点

今日の国際都市バンコクの「ヘソ」にあたる交差点です。タイの人々は、この地点の土地が持つ独特のパワーを肌で感じており、交差点周辺には8つものヒンドゥー神の祠が点在しています。これが、「神々の交差点」とも呼ばれる所以です。

- (1)トリムールティ(三神一体)の祠：恋愛成就の神とされています。
- (2)ガネーシャの祠：学問や仕事の成功に関する願いが叶うとされています。
- (3)パールヴァティーの祠：幸福な結婚を実現させる神とされています。
- (4)ラクシュミーの祠：美と富と豊穡と幸運をもたらす神とされています。
- (5)ナーラーヤナ神(ガルグダに乗る姿)の祠：ビジネスや商売の成功をもたらすとされています。
- (6)インドラ神の祠：良い行いをする者たちを守護する神とされています。
- (7)エラワン(ブラフマー神)の祠：タイで最も有名な祠とも言えるでしょう。あらゆる願いを叶えるために世界中から多くの参拝客が集まっています。
- (8)ナーラーヤナ神(蛇王の上に立つ姿)像：やや離れた警察庁本部に置かれています。



写真を撮ろう!



- ワット・ポーウォーンニウェー
- チャクラボン・モスク
周辺のコミュニティ
- ドゥリヤプラニート財団
- チャオポー・ヌー廟
- ワット・トリートッサテープ

おすすめルート

ワット・ポーウォーンニウェー

7分 (550m)

チャクラボン・モスク
周辺のコミュニティ

6分 (550m)

スコータイ風米類
「ソムゾン・ポーチャナー」

1分 (600m)

ドゥリヤプラニート財団

6分 (600m)

ワット・サムブラヤー
(ワット・バーンクンプロム)

2分 (170m)

ワット・イアムウォーラヌット

4分 (300m)

ワット・マイアマタロット

6分 (500m)

チャオポー・ヌー廟

8分 (650m)

ワット・トリートッサテープ

12分 (1km)

カオサン通り

バンランプーの寺町巡り



#walkingbangkok
#walkingbkk

f AnnLinkSketchBooks



กรมส่งเสริมวัฒนธรรม
สำนักงานหอสมุดแห่งชาติ
TAT BANGKOK

*バンランプー

バンランプーの寺町巡り



01

ワット・ポーウォー ンニウェート

ラマ3世の時代に建てられたお寺です。以降バンコクでも最も格式の高い寺院の一つとして、またタイ仏教タマユット派の総本山として、今までに4人の法王がお住まいになっています。

また、ラマ5世やラマ9世(故プミポン前国王)、ラマ10世(ワチラロンコーン現国王)など、歴代の国王や王子たちが一時出家をした場所でもあり、大変管理の行き届いたお寺です。



02

チャクラボン・モスク周辺 のコミュニティ

ラマ2世の頃、タイ最南端のバツタニーからやって来たムスリムたちがこの地に住むようになって出来上がった古いコミュニティです。繁華街に近く、周囲が開発の波に飲まれる中、チャクラボン・モスクを集落の中心に、ムスリムの伝統的な生活文化が色濃く残されています。この地区の人々は昔から繊細な金細工に優れており、今でも多くの家庭でその技が受け継がれています。



03

スコータイ風米麺 「ソムソン・ポーチャナー」

創業40年以上のソムソン・ポーチャナーは、サムセン通りのソーイ3と5の間にあります。特に人気のメニューは、スコータイ風米麺、ナムブリック・ロンルア(エビを発酵させたペーストなどを用いたディップソースの一種)の炒飯、アヒル肉の濃厚レッドカレー、その他伝統的なスイーツなどです。また、カノムチーン・サオナムと呼ばれるココナツミルクとパイナップル、ニンニクを用いた冷や麦(発酵麺)など、今日では大変珍しくなってしまった昔ながらの宮廷料理のメニューも是非試してみたいものです。



ドゥリヤプラニート財団

ワット・サンウエーチャウィサヤーラームの近くにあります。100年以上前からこの地にある家は「音楽の家」とも言われ、タイの伝統音楽を守るとともに、その素晴らしさを次世代に伝えるための様々な活動が行われています。タイの伝統楽器に触れ、学ぶこともできる貴重なスポットと言えます。長期滞在であれば、気に入った楽器の演奏を本格的に学ぶこともできます。

04



05

ワット・サームプラヤー (ワット・バーンクンプロム)

ラマ1世の時代に建てられた古いお寺です。布薩堂には美しい中国風の装飾が施されています。ルアンポー・ナンと呼ばれる仏像は、鉢を両手に持って座っている姿勢で大変珍しく、参拝をすると特に金運が良くなると評判です。また、寝釈迦仏の安置されているお堂も美しく、人生に平安をもたらすご利益があるとされています。





06

ワット・イアムウォーラヌット

サムセーン通りに面した古いお寺で、境内にはタイ仏教の仏像の他にも観音様やヒンドゥー教の神像など11の神聖な信仰対象が所狭しと集まっています。また、占星術協会もこの中にあり、伝統的な星占いをしてもらったり、星占いを習うこともできます。

07

ワット・マイアマタロット

トンブリー王朝時代の末期に建てられたお寺です。この寺院が大変有名なのは、1868年に大仏塔が建てられた際、当時もっとも靈験あらたかであるとされたトンブリー地区ワット・ラカンの僧侶、ルアンポー・トー・プロムランシーによって儀式が行われ、同時に84000のプラ・クルアン(小さな仏像の形をしたお守り)が作られたことです。ルアンポー・トーは、タイで最も有名な女性の亡霊「メー・ナーク」の鎮魂に成功した僧侶としても広く知られ、この時に作られたお守りは最も高値で取り引きされています。



08

チャオポー・ヌー廟

100年近くに渡ってバンラムプー地区の人々の信仰の中心であり続ける聖廟です。ここにはバンラムプー運河を流れてここに流れ着き、その後どこにも流れてゆこうとしなかった…と言われる仏像が祀られています。1960年、この周辺の市場で大きな火災が発生しました。その時住民たちはピンク色の服を着た男の子が旗を振って火を消そうとしていたのを目撃したと言います。その後鎮火したので、あの子はきっと天使だったに違いないと語り継がれるようになりました。



09

ワット・トリートッサテープ

ラマ4世の2番目の王子であったスプラディット親王が財を投じ建立を試みましたが、建設工事の開始を待たずに逝去。その後、兄でありラマ4世最初の王子であったノッパウォン親王が寺院を建設しました。しかし、本堂の完成を待たずして親王が逝去してしまっています。そこで、父であるラマ4世が二人の息子の後を継いで寺院を完成させました。この寺院の名前の「トリ(=3)、トッサ(=男)、テープ(=天上人)」は、まさに3人の天上人によって建てられたという事を意味しています。



10

カオサン通り

バンラムプー近くにあり、年中いつ訪れても活気にあふれた通りです。特に毎年4月中旬のソンクラーン(タイ正月)は、世界中からの旅行者たちが水かけ祭りを楽しむ場所としてよく知られています。ゲストハウスや旅行会社、そしてタイ料理はもちろん世界各国の料理やナイトライフも充実しており、世界中からバックパッカーたちが集まってきます。バンコクでも屈指の国際色豊かなエリアです。



**バンコク
旧市街の城壁
周辺を巡る**



写真を撮ろう!

- コピ・ヒア・タイキー(泰記コーヒー)
- バーン・パート集落
- トローク・シャンハイ(上海横丁)
- ワット・サケート(黄金の丘寺院)
- マハーカーン若



おすすめルート

- コピ・ヒア・タイキー
(泰記コーヒー)
.....
5分 (400m)
- 香水の「ナーンロイ」
.....
8分 (600m)
- バーン・パート集落
.....
5分 (350m)
- トローク・シャンハイ
(上海横丁)
.....
6分 (500m)
- ワット・サケート
(黄金の丘寺院)
.....
6分 (500m)
- マハーカーン若



城壁周辺を巡る * バンコク旧市街



01

コピ・ヒア・タイキー (邢泰記コーヒー)

ヒア・タイキーは昔ながらのコーヒーで有名で多くの支店を出していますが、ここがその元祖(本店)です。1953年創業の雑貨店から3代かけて徐々にコーヒー店へと変わってきました。店内には懐かしいものがいっぱいで、ノスタルジックな雰囲気になっています。昔ながらのコーヒーの他に朝食メニューや豚や魚のステーキなどのお食事も充実しています。





02

香水の「ナンローイ」

今から約90年前、創業者のヒアンお婆さんが宮廷に仕えていた友人から香水の作り方を教えてもらい、そこにタイならではの花やハーブの香りを配合してナンローイ市場でオリジナルの香水を販売し始めました。タイの気候風土に合った爽やかで涼し気な香りは人気を博し、「ナンローイ市場まで香水を買いに…」とご婦人たちの間で話題となってから、「ナンローイ」はタイを代表する香水ブランドとして、マハーチャイ通りに店舗を持つようになりました。

03

バーン・バート集落

その名は僧侶が托鉢で用いる「バート(鉢)」を作る人たちが暮らす集落であったこと由来します。今日では鉢を作る家は数軒を残すのみですが、多くの観光客が工房を訪れ、記念に小さな鉢を買い求めています。集落はワット・サケートの近く、ポーリパット通りのプラトゥーピー付近にあります。



04

トローク・シャンハイ(上海横丁)

ワット・サケート、マハーナーク運河周辺の一帯には中国上海から移住して来た華人たちの集落がありました。ラマ4世の時代にバンコクの都市計画で洋風のタウンハウスが建つと、約40の家族がそこで生業として来た木工品の販売を始めました。現在では3世代目となりますが、材木屋や木の家具店、さらに木工から発展したお棺のお店などが並ぶエリアとなっています。



ワット・サケート(黄金の丘寺院)

通称ブーカオ・トーン(=直訳すれば「黄金の山」)。広い敷地の寺院そのものはアユタヤ王朝時代からある古いものですが、この見どころと言えば仏舍利(ブツダのご遺骨)を納めた大きな人工の山でしょう。仏舍利がインドから運ばれて来た事は史実としてインド、タイ双方の書物に記述が残っています。もともと平地であるバンコクにこれだけ大きな丘を人工的に造るのは大変な工事だったでしょう。頂上からはバンコク市内を一望することができます。

05



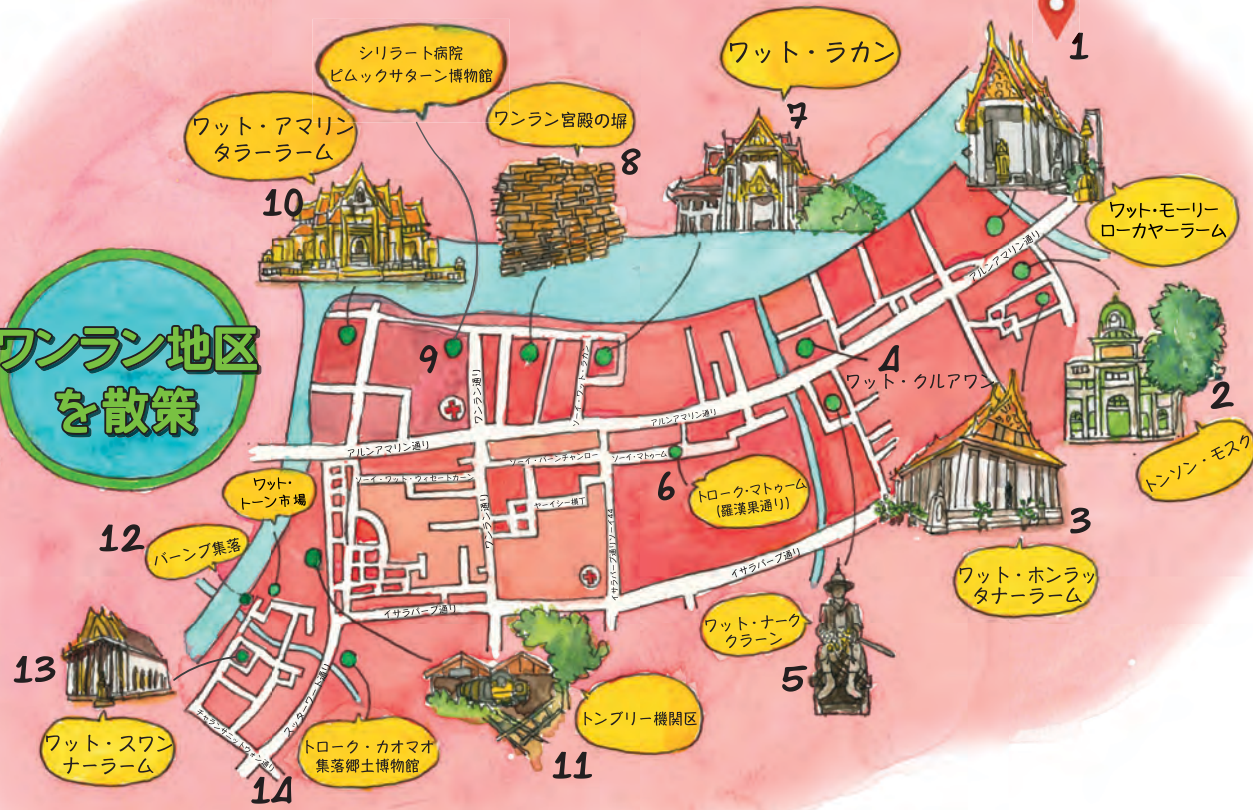
マハーカーン砦

パーンファー橋近くにあるマハーカーン砦は、ラマ1世大王の時代に王都を守るために建てられた14の砦のうちの一つです。周囲を二重の塀で囲まれた3階建ての堅固な砦です。基盤は地下にしっかり築かれ、塀の上部はセーマーと呼ばれる聖域を表す石板の形(木の葉のような先の尖った形)が並び、その内側には大砲も配置されました。最上部3階部分は、2層の屋根に覆われた八角形の塔となっています。

06



ワンラン地区 を散策



写真を撮ろう!

- ワット・モーリーローカヤラーム
- トンソン・モスク
- ワット・ラカン
- ワンラン宮殿の堀
- シリラート病院
ビムックサターン博物館



おすすめルート

- ワット・モーリーローカヤラーム
2分 (180m)
- トンソン・モスク
2分 (140m)
- ワット・ホンラッタナーラーム
11分 (850m)
- ワット・クシアワン
2分 (180m)
- ワット・ナーククラーン
9分 (700m)
- トローク・マトゥーム
(羅漢果通り)
9分 (700m)
- ワット・ラカン
4分 (300m)
- ワンラン宮殿の堀
9分 (850m)
- シリラート病院
ビムックサターン博物館
6分 (500m)
- ワット・アマリントアラーム
2分 (180m)
- トンブリー機関区
2分 (180m)
- バーンブ集落
2分 (180m)
- ワット・スワンナーラーム
2分 (180m)
- トローク・カオマオ集落郷土博物館

Walking
Bangkok



#walkingbangkok
#walkingbkk

f AnnLinksketchBooks



กรุงเทพมหานคร
กรุงเทพมหานคร
TAT BANGKOK

*
ワンラン地区の歴史散歩
ワンラン地区



ワット・モーリーローカヤーラーム

01

アユタヤ時代からある古い寺院で、詳しい創建年や創建者は分かっていません。アユタヤ王朝時代から「トンブリー市場の横に位置している寺」という意味で、ワット・タイタラートと呼ばれています。トンブリー王朝タークシン大王の時代、この寺院は王宮の敷地の一部となったため、僧侶はおらず、建物の一部は王の塩の倉庫などにも使われたと考えられています。当時この辺りはチャオブラヤー川が蛇行していましたが、後に水上交通の効率化を図るために現在のように川を直線化する工事が行われ、多くの商船によって賑わったと言います。

02

トンソン・モスク

「バンコク・ヤイ・モスク」などとも呼ばれるこのモスクは、バンコクで最も古く重要なモスクの一つです。トンブリー王朝タークシン大王が腹心の将軍の埋葬式のため、アユタヤ王朝時代からあったこのモスクを訪れ、拡大させました。当時、タイにはシーア派のモスクがありませんでしたが、このモスクはシーア派のムスリムの儀式にも使われました。今日では宗教行事の他に、休日にアラビア語教室なども開かれています。



ワット・ホンラッタナーラーム

03

アユタヤ時代に中国人の豪商によって建立されました。その後、トンブリー王朝時代になるとタークシン大王はこの寺院を第一級王室寺院に格上げし、大規模な改修を行いました。今日でも布薩堂はトンブリー地区最大で、その装飾も大変美しいものです。また、この寺院には黄金の仏像も安置されています。かつて漆喰で覆われていましたが、これを砕いてみたところ、中からの黄金の仏像が姿を現したと言います。台座に残る文字からアユタヤ王朝初期(ウートーン朝)の時代のものと推測されます。



ワット・クアワン

詳しい創建年は分かっていませんが、ラマ3世の時代に建てられた寺院とされています。布薩堂はの外装が美しく、漆喰に金箔を貼って花や木、鳥などをあしらっています。また内部の壁画はブッタの500の前世の物語として知られるジャータカ物語を格子状に分けられた枠の中に描いたもので、大変保存状態や良く見ごたえがあります。

04



06

トローク・マトゥーム(羅漢果通り)

この通りには、もともとソーイ・スワンアンという名がありましたが、羅漢果を用いた食品を作る家が集まるため、政府により「羅漢果通り」と名称が変更されました。日本ではのど飴などでも知る人も多い羅漢果は、中国南部や東南アジアでは民間療法で古くから用いられてきました。熟した実は消化を促進し、弱めの下剤として用いられます。また、皮が厚い果物ですので、砂糖漬けにしたり、干したものを煎じて清涼飲料として用いることもあります。

05

ワット・ナーククラン

アユタヤ王朝時代末期には既にここに3つの寺院があり、後のトンブリー王朝時代に王室寺院として格上げされ一つにまとめられました。ビルマ軍にアユタヤの都をこごとく破壊された後、再び分断された国の形を作り直したタークシン大王の治世は、その15年間(1767~1782年)毎年のように戦火が絶えず、これが王の心労の原因になったとも言われています。よって、この時代に新しく豪華絢爛な建物が建てられることは少なく、

この寺院のように元々あつ

た庶民の寺院を王級寺院に格

上げしたと言われています。



07

ワット・ラカン

アユタヤ王朝時代からある寺院で、もとはワット・バーンワー・ヤイと呼ばれていました。トンブリー王朝時代に王級寺院とされ、改修されるとともに法王の住む寺院とされました。続くバンコク(ラッタナーコーシン)王朝のラマ1世の時代にも改修が行われ、この時に大変響きの良い鐘が発掘されました。そこで、破壊されたかつての都、アユタヤにもワット・ラカン(鐘の寺)があった事にもちなんで、この寺院がワット・ラカンと改名されました。この寺院では、ラマ1世の時代の美しい建築芸術を見ることができます。



08

ワンラン宮殿の塀

ワット・ラカンから出て左に曲がりシリラート病院に向かって小道を進むと、寺院の敷地を過ぎて少し行った辺りに古めかしい赤レンガの塀が残っています。この地区はワンランと呼ばれ、大きな国立病院であるシリラート病院や船着き場に隣接しているため、多くの商店で賑わい、一日中活気にあふれています。



09

シリラート病院 ピムックサターン博物館

かつてここにワンラン(宮殿)があり、後にタイ国鉄のトンブリー駅であったこともある場所で、古くからバンコク・ノイ集落の生活文化と深く関わりのあるエリアです。現在はシリラート病院の敷地となっていますが、当時の駅舎は保存され、博物館として生まれ変わりました。この地区の歴史やタイの近代医学の発展についての展示が充実しています。



10

ワット・アマリタラーラーム

アユタヤ王朝時代からあった寺院をトンブリー王朝時代に修復・拡大しました。続くバンコク(ラッタナコーシン)王朝のラマ1世の時代には寺院のほぼ全ての重要な建物が再建され、ラマ1世の妃の名にちなんで改名されました。第二次世界大戦中に空襲の被害に遭いましたが、布薩堂は難を逃れ現在に至ります。



11

トンブリー機関区

トンブリー(バンコク・ノイ)駅にほど近い機関車の整備場です。主にディーゼル機関車の整備を行っていますが、ここには戦後間もなく日本から戦後補償として譲渡された蒸気機関車5両(ミカド型1両、パシフィック型1両、C56型2両)が、動態保存されています。これらの日本産蒸気機関車の整備には専門の知識や経験が必要とされますが、今日でも第二の故郷で大切にしてもらい、年に数回の記念日にバンコク〜アユタヤ間などで運行されているのは喜ばしいことです。



12

バーンブ集落

この集落には、銅の器を作る工房が集まっています。彼らの祖先はアユタヤが王都であった時代から職業集団として活躍しており、後のトンブリー王朝、もしくはバンコク(ラッタナコーシン)王朝の初期にこの地に移り住んだと言われています。職人の伝統はその作品の素晴らしさのみならず、古くから伝わる職人の神様に祈りを捧げる儀式もまた、今日までしっかりと守られています。

13

ワット・スワンナーラーム

バンコク・ノイ運河沿いにアユタヤ王朝時代からある古い寺院です。トンブリー王朝時代にはビルマの捕虜をこの地で処刑したとも言われています。その後バンコク(ラッタナコーシン)王朝のラマ1世の時代に寺院は大きく改修されました。本尊は特に軍事に関するご利益があると信じられ、願いが叶ったら馬を走らせる(実際にはパークオマーという布を巻いた人が走る)という変わった伝統が今も残っています。



14

トローク・カオマオ集落郷土博物館

トローク・カオマオは、トンブリー王朝時代からある古い集落で、その名の通り「カオマオ(煎り米)」を用いたおかずやお菓子が名物です。この地区の郷土博物館は、ワット・スッターワートの中にあり、地域の歴史や文化に関する展示の他、ワークショップなどが行われています。



写真を撮ろう!



- 旧中央郵便局ビル
- ホーリー・ロザリー教会
- ソーヘンタイ・マンション (索恒泰邸宅)
- ルアンコーチャーイサハーク・モスク
- ソンワート通りの街並み

おすすめルート

- 旧中央郵便局ビル
2分 (160m)
- ストリート・アート・フェスティバルの作品群
7分 (560m)
- ソーイ・キャプテン・ブッシュ1番地
9分 (790m)
- ホーリー・ロザリー教会
5分 (410m)
- ホン・ウォー・クン廟 (漢王廟)
1分 (50m)
- ソーヘンタイ・マンション (索恒泰邸宅)
1分 (210m)
- チョースーコン廟 (清水祖師廟)
12分 (950m)
- ルアンコーチャーイサハーク・モスク
2分 (180m)
- ソンワート通りの街並み



Walking Bangkok

 #walkingbangkok
 #walkingbkk

ヤワラートで アートの街を攻略!

何を食べる?

- ギャラリー・カフェ
- ダック・ヌードル・ハウス
- クイッティアオ・ルー
- ロフテル22ホステル
- 鴨料理の「ウライ」



* ヲワラート地区 (その2) アートの街を攻略!

01

旧中央郵便局ビル

ネオクラシック様式の大きなビルは1935年、ラマ8世の時代に建てられました。シンプルながら大変品の良いインテリアが評判で、様々なイベントや撮影でも使われています。現在TDCCタイ・クリエイティブ&デザインセンターが開設され、新たにタイの顔として生まれ変わりました。



02

ストリート・アート・フェスティバルの作品群

ストリート・アートで街をジャックするこのフェスティバルはタイを始めヨーロッパや日本のアーティストたちが参加し、バンコクの街に楽しい作品を残してくれました。作品群は、チャルンクルン通りソーイ28、30、32、タラート・ノイ地区、ワット・パトゥムコンカーのお向かいなどで楽しむことができます。



03

ソーイ・キャプテン・ブッシュ 1 番地

古くはフランスのアルコール飲料の蒸留所であった
古い洋館が保存・改装され、現在は王室財産管
理局の事務所として使われています。



04

ホーリー・ロザリー教会

そびえ立つ尖塔が印象的な淡い黄色の教会で
す。ゴシック様式のカトリック教会で、バ
ンコクに王都が移された頃からの歴史を誇
ります。タラートノーイと呼ばれるこの地
域は、バンコクが王都となった際にポルト
ガル人たちの居住区・商区として割り当て
られました。18世紀には木造の教会が建
てられていましたが、その後建て替えと
改修を繰り返し、現在の建物は1897年
に完成したものです。チャオプラヤー
川沿いのこの美しい教会は結婚記念
などの写真撮影スポットとしても
大変人気があります。





05

ホン・ウォー・クワン廟 (漢王廟)

チャオプラヤー川沿いに位置する小さな聖廟です。繊細で美しい彫刻や建造が120年以上の歴史の中で大変魅力的な古めかしさを漂わせています。この地はまた、華人居住区初の浄水場でもあった場所です。

ソーヘンタイ・マンション(索恒泰邸宅)

200年以上前、バンコク(ラッタナーコーシン)王朝初期に建てられました。

四方を建物で囲み、石畳の広い中庭を持つ「四合院」

様式の立派な中国風の邸宅です。正面に入り口、一番奥には母屋があり、先祖の位牌もここに祀られています。正面以外の建物はタイ風に床を持ち上げ2階建てに、また古い建築様式のため釘は使われていません。今日でも家主が暮らしており、中庭はプールになりダイビング教室を行っています。事前に連絡を取り邸宅内部を見せてもらうことができます。

06



07

チョースーコン廟 (清水祖師廟)

祖師廟は、今でも年間を通して多くの伝統行事を守り、多くの参拝客で賑わっています。特に、タイで「ジェー(齋)」と呼ばれる菜食週間が盛大に催され、美味しい精進料理を楽しむ事ができる他、京劇などを見る事もできます。この一帯には、古い街並みが残されており、中国清朝時代の街並みの雰囲気が漂います。



08

ルアンコーチャーイサハーク・モスク

サムバンタウォン区唯一のモスクですが、他のモスクのようにドームを持たないヨーロッパスタイルの建物で、ラマ4世の時代に、高官であったルアン・コーチャーイサハークによってタイを訪れるイスラム商人たちのために建てられました。今日でも、毎週金曜日のお昼時には地域のムスリムたちがたくさん集まって祈りを捧げています。



09

ソンワート通りの街並み

チャオプラヤー川に平行するソンワート通りの両側に残る古めかしい洋風のタウンハウスは、バンコクの都市開発の最も初期の時代に商店街として建てられたものです。川沿いには外壁や窓枠に美しい漆喰の装飾が施された3階建ての建物が、反対側側には花や果物の模様の装飾にコロントス風の柱が目目を引く2階建ての建物が並びます。





クローンサーン、ターディンデー地区を歩く

Walking Bangkok

#walkingbangkok
#walkingbkk

f AnLinkSketchBooks

การท่องเที่ยวแห่งประเทศไทย
สำนักงานกรุงเทพมหานคร
TAT BANGKOK



写真を撮ろう!

- ソムテット市場の豚足ご飯
- ワット・ピチャイヤートカーラーム (ワット・ピチャイヤート)
- ワット・アノンカーラーム (ワット・アノン)
- チャオポースア廟
- 旧ナンブラー工場(唐源合)



おすすめルート

- おすすめルート
2分 (160m)
- ワット・ピチャイヤートカーラーム
3分 (190m)
- ワット・アノンカーラーム
5分 (400m)
- チャオポースア廟
3分 (210m)
- チャオポー・クワンウー廟(開羽廟)
1分 (89m)
- 旧ナンブラー工場(唐源合)
7分 (550m)
- レームトーン塩取引所跡
9分 (750m)
- セーフィー・モスク
11分 (900m)
- LHONG 1919 (火船廟)
4分 (350m)
- ワット・トーンノックパン
3分 (230m)
- 泰国徳教会茶真閣
5分 (400m)
- ボンパッチャーミット塔
4分 (350m)
- ザ・ジャム・ファクトリー

何を食べる?



- ソムテット市場の豚足ご飯
- 鴨の煮込み「チュア・キム・ファット」(鶯餃發)
- ターティンテンのサデ(豚串焼き)
- 「ラン・ティエ」
- タイ料理「ネバー・エンティング・サマー」(ジャム・ファクトリー内)

BANGKOK
2017
THAILAND
2560

* クローンサーン マーティンデーン地区

01 ソムデット市場の 豚足ご飯

マラヤートディー交差点の近くにある有名店です。朝早くから開店し、午後には売り切れてしまうほどの人気です。このお店の豚足ご飯を食べるためには行列は覚悟です。店主のおばさんが豚足を煮込むのに使っている鍋の大きさは圧巻です。お店でいただくもよし、お持ち帰りもできます。



02

ワット・ピチャイヤートカーラーム (ワット・ピチャイヤート)

クローンサーン区、サパーンブット(ブット橋)の近くの運河沿いにある寺院です。元は廃寺でしたが、政府高官で実力者であったタット・ブンナークが改修を命じ、中国からの貿易船(帆船)との貿易拠点とされました。寺院の建築はタイと中国の折衷様式です。堂の屋根を支える円形の柱の基盤には三国志にちなんだ装飾が施されています。また、布薩堂の横には大きな仏塔も立ち遠くからでも目を引きます。僧房は仏教寺院には珍しく洋風の建築で、漆喰や木彫の装飾が大変美しいです。

ワット・アノンカーラーム (ワット・アノン)

ラマ3世の時代に、実力者であったタット・ブンナークの妻によって夫の建てたワット・ピチャイヤートと対になるように建てられた寺院です。元は彼女の名にちなんでワット・ノイカムテムと呼ばれていましたが、後にラマ4世によって現在の名前を与えられました。寺院の装飾が大変優美であることで知られ、スコタイ時代の仏像が本尊として安置されています。また、本堂両脇に立つモントップと呼ばれる尖塔を持つ堂や僧房も美しいものです。

03



04

チャオポースア廟

古い市場周辺の集落の中にある小さな聖廟です。お参りを終えたら是非見ておきたいのが、境内に保存されているオランダ製の古い大砲です。大砲のサイズから考えて、もともと昔の戦艦に取り付けられていたものであろうと推測されます



05

チャオポー・クワンウー廟(関羽廟)

関羽を祀った聖廟としては、バンコクで最も古いもので、280年以上の歴史があります。この辺りは中国から交易のためにやってきた帆船のほとんど全てが停泊していたために早い時代から廟が建てられたのです。ここにはそれぞれ時代の異なる関羽の像が3つ祀られています。最も小さいものは清の乾隆帝(在位1735~1796年、タイではアユタヤ王朝時代末期)に、その後ラマ1世と、ラマ3世の時代にそれぞれ中国から運ばれてきたものです。



06

旧ナンプラー工場(唐源合)

時の流れに取り残されたようにひっそりと建つ美しい中国南部(潮州)風建築です。ラマ2世の時代に建てられて以来、持ち主が何度も変わり、建物の用途も時代によって変わってきました。かつては、ナンプラー工場としても使われていましたが、今では子孫にあたる家族がこの家で暮らしているため、外からのみ見ることができます。ナンプラーの製造は場所を移して今でも続いています。

「ルアンカーオ」というブランドのナンプラーを、この家のすぐ近くの売店で購入することができます。ラマ3世の時代にそれぞれ中国から運ばれてきたものです。



07

レームトーン塩取引所跡

70年以上前に建てられた建物で、チャオプラー川に面しています。クローンサーン地区にはかつて多くの塩の取引所がありましたが、今残るのはここだけとなりました。サムットサーコーン県産の良質の塩は運河の水運でここに集められ、洗浄してからマレーシアやシンガポールなどにも輸出されていました。塩の洗浄は塩が水に溶けてしまわないようにはあらかじめ濃い塩水を用いるなど伝統的な手法が知られています。今では塩の取引所としての業務は行っていませんが、この地域の歴史を物語る建物は保存され、見学することができます。



08

セーフィー・モスク

タイには珍しいシーア派のモスクです。

かつてインドからやって来て商売をしていたムスリムたちによって建てられた白いモスクです。この建物の色から「白いモスク」とも呼ばれています。モスクはチャオプラヤー川に面し、ラーチャウォン船着き場のお向かいに位置しています。すでに100年近くの歴史を持ちますが、管理が非常によく行き届いており、大変美しい建築です。陸路でモスクに行くためにはソーイ・ソムデットチャオプラヤー5(ソーイ・チャンナーク)に入ってから私有地である倉庫の敷地を通るなど、少し大変ですが、モスクの聖職者たちは訪問者を優しく迎えてくれます。



09

LHONG 1919 (火船廊)

チャオプラヤー川東岸に面して広々とした中庭を囲むように馬蹄形に古い中国風の建物が建っています。ここはかつて「火船廊」と呼ばれ、その名の通り、中国からの蒸気船が停泊する交易の拠点でした。またここにある聖廟は、航行の安全を感謝する船員たちから厚く信仰されていました。長年に渡って廃墟同然の状態でしたが、色鮮やかな壁画の描かれた建物などは壊されず残っていました。2017年11月、歴史的遺産を保存しながらも新たに芸術や食の拠点として「LHONG 1919」がオープンしました。リバーサイドで今注目のスポットです。



10

ワット・トーンノッパク

アユタヤ王朝時代からある古い寺院で、芸術局により史跡に指定されています。ラマ3世、4世の時代に大規模な修復が行われ現在に至ります。布薩堂の内部の壁画が特に素晴らしく、周囲にベッサンタラ物語が、またご本尊の背後には天井から吊り下げられたような巨大なカーテンが描かれて独特の荘厳な雰囲気をもたらしています。



11

泰国德教会紫真閣

泰国德教会は、様々な災害や事故の被害を受けた人々を救済する慈善団体です。紫真閣には、北宋の名僧・大峰祖師、南宋の名僧・済公、伝説上の玉皇大帝などが祀られ参拝することができます。また、中国風の立派な八重の楼閣に登ってチャオプラヤー川沿いの広々とした眺めを楽しむのを忘れなく。



12

ポーンパッチャーミット砦

クローンサーン警察署のお向かいにある砦です。ラマ4世の時代にバンコクの街区を拡張する際に掘られたパドウンクルンカセム運河沿いに建設されバンコクの南を守る砦としました。現在バンコクに残る4つの砦のうちの一つです。

この砦には、外国船のバンコク入港を許可を知らせた旗の掲揚台が残っています。



13

ザ・ジャム・ファクトリー

チャオプラヤー川沿いに残っていた電池の倉庫、氷の倉庫、薬工場などの建物の形を残したまま、ギャラリー、ブックスストア、レストラン、カフェなどに生まれ変わった人気のスポットです。ネバー・エンディング・サマーはバンコクでも話題のモダンなタイ料理レストランです。



写真を撮ろう!



- サラーンロム公園
- サーラー・チャルムクレン・ロイヤル・シアター
- バーンモー市場
- パフラット
- ヨートビマーン・リバーウォーク

おすすめルート

- サラーンロム公園
7分 (550m)
- サーラー・チャルムクレン・ロイヤル・シアター
3分 (210m)
- 「オン・ロック・ユン(安楽園)」
2分 (190m)
- オールド・サイアム・ショッピングプラザ
5分 (400m)
- チャーヤ・チッタコーン写真館
2分 (170m)
- ワット・ティップワラー(甘露寺)
1分 (120m)
- ナイチンゲール・オリンピック百貨店
3分 (230m)
- バーンモー市場
3分 (250m)
- パフラット
11分 (850m)
- ヨートビマーン・リバーウォーク



バーンモー、サムペン かつての流行発信地を歩く

何を食べる?



- 「オン・ロック・ユン(安楽園)」
- オールド・サイアム・ショッピングプラザ
- 「ファーム・トゥー・テーブル・ハイドアウト」
- スイート
- ヨートビマーン・リバーウォーク



#walkingbangkok #walkingbkk



* バーンモー サムベン

かつての流行発信地を歩く

01

サラーンロム公園

ラマ5世の時代、1866年に作られた公園で、王宮・エメラルド寺院の東側のお向かいにあります。ヘンリー・アラバスターと

いうイギリス人によって設計され、当時としては時代の先端をゆく西洋式庭園

でした。公園の中には、ラマ5世が王妃と王女たちへの愛情の印として作った大理石の記念碑の他、一面ガラス張りの洋館や八角形の東屋、そして100年を超える歴史を持つ貴重なヨーロッパ式の噴水など見どころが多くあります。



02

サーラー・チャルムクrun・ロイヤル・シアター

タイ国を代表する先進的な劇場として、ラマ7世が完成させました。王はこの劇場の建設のために当時の金額で900万バーツもの私費を投じました。

1930年の起工式には王自らが参加し、「サーラー・チャルムクrun」と名付けたと言われています。アメリカから当時

最先端のチルド・ウォーター・システムを導入し、

アジア初の冷房付き劇場となりました。建物は周囲に小部屋を配置し重みを支える構造を取る

ため、ロビーと劇場部分には柱が無く、大

変広々とした作りになっています。

1933年に映画館として開館、

その後第二次世界大戦時から

は演劇場として使われる

ようになり、現在で

は伝統仮面舞踏劇の

コーンなどの公演

が人気です。



03

「オン・ロック・ユン(安樂園)」

今日、バンコクの若者たちが集まり、ファッションの発信地となっているのはサイアム・スクエア周辺を始めとするスポットです。しかし、かつては、サーラー・チャルムクレン・シアターが流行の中心として君臨した時代がありました。オン・ロック・ユンの店内に一步足を踏み入れれば、その頃にタイムスリップしたような気分になれるでしょう。店内のテーブルや椅子、食器を並べたショーケースはもちろん、メニューまでもが昔のまま、他のお店では味わうことのできない雰囲気にも魅了されます。

04

オールド・サイアム・ショッピングプラザ (The Old Siam Shopping Plaza)

サーラー・チャルムクレン・シアターに隣接したかつてのバンコクきっての繁華街にある3階建てのショッピングモールです。上階は、良質なタイシルクのショップが並び、タイ各地で織られた素晴らしい布地を選んで、素敵なオーダーメイドの一着を仕立てることもできます。また、1階の吹き抜け広場は、毎日9:00~20:00、タイを代表する昔ながらのお惣菜やお菓子の実演販売コーナーが大変人気です。

05

チャーヤー・チッタコーン写真館

歴史ある写真館で、1930年代から40年代にかけて8回内閣を組閣し、日本とも縁の深かったブレイク・ピブーンソクラーム元帥夫妻のポートレートも飾られています。店内には撮影用の各省庁の公務員の制服はもちろん、更衣室には実にたくさんの撮影用の衣装や小道具が揃っています。この写真館では今でも120mmフィルムや4X5(しのご)を使用して撮影し、70年前と同様に油性絵具と筆によって写真を修正している本格派です。





06

ワット・ティップ ワラー(甘露寺)

トンブリー王朝時代に創建された古い中国系の仏教寺院です。境内には観音菩薩を始め、主に潮州系の華人たちの信仰の対象となる様々は仏像、神像が祀られており、線香を焚き

ながらお参りする人の姿を見ることができます。厄年などの厄払い、さらにオーラを強くするなど大変ご利益があると言われています。

07

ナイチンゲール・オリンピック百貨店

創業1930年、タイで初めて舶来品を販売した百貨店として知られています。今ではタイでも最も濃厚なレトロ百貨店ですが、当時は時代の最先端をゆく店として賑わいました。今では決しておしゃれなデパートやショッピングモールに太刀打ちはできませんが、おじいさん、おばあさんの若かった頃の思い出の世界がそのまま残されているかのような店内を見ておく価値があります。



08

バーンモー市場

電子機器を扱うタイで最大の市場です。特に音響・映像関係の機器についてはどんなものでも見つかるほどの品ぞろえです。また、コンピューターの各種部品なども充実しています。



09

パフラット

日本の明治時代、ラマ5世の時代、パフラット通りは、チャルンクルン通り、パムルンムアン通り、ファンナコーン通りと並び、バンコクの主要道路として発展しました。パフラットと呼ばれるエリアは比較的広いですが、その中心が市場にあたり、今日でも布地を始めさまざまな衣料品などのお店が多く集まります。また、この辺りの商店はインド系の人々が経営しているため、リトル・インディアとしても知られ、インドの物産や本場の料理を楽しむこともできます。



10

ヨートピマーン・リバーウォーク

東南アジア最大の花市場としても知られるパーククロン市場に隣接し、チャオプラヤー川に面しています。ネオクラシック様式の建物は川沿いの風景に彩りを加えています。6つの建物がつながっており、特にワット・アルン(暁の寺)の塔を望むテラスに面したカフェやレストランは、日が暮れてから大変人気のあるスポットです。船着き場もあり、渋滞を避けてチャオプラヤー・エクスプレスで来ることもできます。また、2019年内には地下鉄路線も延伸し、駅直結となる予定です(2018年2月現在工事中)。





タラートブルー〜ジョムトーン

- 何を食べる?**
- チャーシューご飯の「スニー」
 - パミー(麺)の「トンレン」
 - 牛煮込みの「T.チャンベン」
 - たまご入りアイス
 - ブルー市場のお菓子
 - ブルー市場のクイチャイ(ニラ饅頭)

写真を撮ろう!

- ウォンウィエンヤイ駅
- イントラオソット(薬店)
- 古式コーヒー「スリヤー」
- タラートブルーのクイチャイ(ニラ饅頭)有名店
- ワット・ラーチャオーラサーラーム

おすすめルート

- ウォンウィエンヤイ駅
18分 (1.5 km) または列車で4分
- タラートブルー駅
3分 (240m)
- ワット・ラーチャカル
1分 (61m)
- イントラオソット(薬店)
2分 (170m)
- ワット・チャンターラーム
1分 (80m)
- 古式コーヒー「スリヤー」
3分 (200m)
- ワット・インタララーム
10分 (800m)
- タラートブルーのクイチャイ(ニラ饅頭)有名店
2分 (150m)
- ミークロブ(揚げ麺)の「チーニー」
列車または乗り合い自動車で14分 (4.1 km)
- ワット・ラーチャオーラサーラーム
8分 (700m)
- ワット・ナンノーン
4分 (400m)
- ワット・ナンラート

Walking Bangkok

#walkingbangkok
#walkingbkk

AnnLinksketchBooks





* タラートブルー ジョームトーン



02

タラートブルー駅

ウォンウィエンヤイ駅から一駅目のタラートブルー駅です。駅周辺には、麺類、チャーシューご飯、お菓子など美味しい料理店がたくさん並んでいて、乗降客や買い物客で一日中賑わっています。特に駅近くのクイチャイ(ニラ饅頭)のお店は行列のできる名店です。



01

ウォンウィエンヤイ駅

漁港の町マハーチャイ方面への列車の終着駅となっています。ここからローカル線と渡し船を乗り継いでサムットソクラーム県の「傘たたみ市場」までのんびり汽車旅行をすることもできます。BTSスカイトレインの同名駅からは徒歩10分ほど離れていますが、乗り換えをすることができます。



03

ワット・ラーチャカル

古代インドのマガタ国の都「王舎城(ラージャグリハ)」が寺院の名の由来です。アユタヤ王朝時代末期に建てられた古い寺院で、その名の通りインドの王舎城から届けられた仏舎利が祀られています。他にもアユタヤ王朝時代に作られた大仏や、トンブリー王朝時代の仰向けの涅槃仏、仏足石などを参拝することができます。

04

イントラオーソット(薬店)

「イントラオーソット」は伝統的なタイハーブの薬店として長い歴史を持っており、現在の店主で3代目です。多くの薬草を取り扱い、店内で調合も行っています。店舗は昔のままで、店内の雰囲気も一見の価値があります。

05

ワット・チャンターラーム

アユタヤ王朝時代に建てられた古い寺院です。ラマ3世の時代に全体的に改修されました。現在見られる布薩堂などは1977年に大修理が完成し、ラマ3世時代の中国風の建築様式を残しつつ鉄筋コンクリートで立て直されたものです。



06

古式コーヒー「スリヤー」

創業1942年の古いコーヒー店です。運河沿いに建つ木のぬくもりのある店内は、懐かしい雰囲気にも包まれ、いつもコーヒー好きたちの楽しそうな声であふれています。



07

ワット・インタラーラーム

ワット・チャンターラーム同様、この寺院もアユタヤ王朝時代からある古いものです。この寺院が歴史の表舞台に登場するのはトンブリー王朝時代です。

タークシン大王自らが寺院全体を改修し、この寺院に瞑想のために訪れたと言われていました。

今日でも王が座っていた座布団が保存されています。新しい布薩堂はラマ3世の時代に作られたものですが、寺院の船着き場近くにある古い布薩堂はトンブリー王朝時代から残るもので、色とりどりの陶器で装飾されているのが特徴です。





08 タラートプルーの クイチャイ(ニラ饅頭)

「クイチャイと言えば…」と、人々が話題にする有名店です。店主の男性がロングヘアなので、「ロングヘアのクイチャイ屋」とも呼ばれています。実はタラートプルー(プルー市場)内には10店ほどクイチャイのお店がありますが、人気のロングヘアの男性のお店は市場の橋の下辺りにあります。お昼近くから一日500個限定で売られています。

ミークロープ(揚げ麺)の「チーンリー」

中国海南島伝来の揚げ麺の老舗で、その歴史は130年にも及びます。かつてラマ5世がこの近くの運河を船で移動中、チーンリーの揚げ麺が美味しいという評判を知り、船を止めさせ王宮に持ち帰りました。王は「噂通りの美味しさであった」と言葉を残しており、その後自ら店に立ち寄りレシピについて聞いたほどです。店は王から荣誉あるガルダの紋章を授かりました。「ラマ5世揚げ麺」とも呼ばれる由縁です。



ワット・ラーチャオーラサーラム

元はアユタヤ王朝時代からある古い寺院です。1820年、後のラマ3世がカンチャナブリでのビルマ軍の征伐のため軍を出陣させ、この地で宿営した時に改修され、戦勝を祈る儀式が執り行われました。しかし、カンチャナブリへ行くとビルマ軍は姿を現さず、その結果、犠牲者を出さずに済みました。これを受けて寺院は再び大きく改修されました。ラマ3世時代の特徴とも言える中国風の建築様式の草分け的存在で、その美しさを今に見ることのできる立派なお寺です。

10



11



ワット・ナンノーン

創建年は分かっていませんが、アユタヤ王朝時代1700年代前半頃に建てられた古い寺院と推測されています。ラマ3世の時代1832年に王の好みであった中国建築の様式を取り入れて大修理が行われました。この地域は、もともとラマ2世の側室でラマ3世の母君が暮らしていたと言われています。



12

ワット・ナンラート

はっきりとした創建年は分かっていませんが、アユタヤ王朝の時代からある古い寺院で、その後200年もの間廃寺となっていました。しかし、ラマ3世の時代、王妃により寺院のほぼ全てが改修されました。ラマ3世の時代、王の命で建てられた寺院は王の好みに合わせて中国建築の様式を取り入れています。王妃によって改修されたこの寺院は純粋なタイ様式を残しているものとなっています。境内の大仏塔には仏舎利も収められています。



ルートチェック表

○ 01



ヤワラート

○ 02



ナンリン・
クローンパドゥン

○ 03



トンブリー

○ 04



バンラムプー・ワンナー
ターティアン

○ 05



大ブランコ・ティンソー通り
チャオポーヌア廟

○ 06



サームセーン・テーウェート

○ 07



バーンラック・シーロム

○ 08



ボーベー市場
ラーチャプラソン交差点

○ 09



バンラムプーの寺町

○ 10



旧市街の城壁周辺

○ 11



ワンラン

○ 12



ヤワラート(その2)
アートの街を攻略

○ 13



クローンサーン
ターディンデーン

○ 14



バーンモー・サムペン

○ 15



タラートブルー



タイ国政府観光庁 バンコク事務所

Tourism Authority of Thailand, Bangkok office

48/11 Preecha Complex, D2 Bld., 8 Fl., Rachadapisek Rd.,
Samsennok, Huay Kwang, Bangkok. 10310

電話：(66) 2276 2720 ~ 21 Fax: (66) 2276 2722

Eメール：tatbangkok@tat.or.th

営業時間：8:30 ~ 16:30 (土日祝休)

Facebook: TAT Bangkok

